

あなたの意識ではありませんか、

参考にしてください

第二卷

八二、***さん、どうでしょうか。あなた自身のエネルギーを充分感じていますでしょうか。

はい、己の肉をととても高く受け止めてきた私にとって、無様な格好でセミナー会場を走り回することは、何とも耐え難いものでした。初めはそうでした。しかし、それを繰り返しているうちに、私は自分の中のエネルギーが、解放たれていくのを感じ、とても嬉しく思っています。己を誇ってきた。田池留吉、お母さん、己を誇ってきましたよ、私も。己を誇ってきました。己を誇って、我が身大切と、いつも、いつも、この身を大切に、そんな転生を繰り返してきました。ああそう言えば、私も、学びの初めのほうで、過去世ということで、またしても、己を誇ってきました。己を持ち上げられて、私は、いい気分になったときもございました。でも、私は、その自分を今、振り返り、そして、セミナー会場を走る私の心を振り返り、今、自分のエネルギーを充分に感じていますでしょうかという問いかけに、本当に幸せ者だと思っています。心に溜め込んだエネルギーを解放つ、こんな素晴らしい学びに触れさせていただき、本当にありがとうございます。

何のために生まれてきたのか、もう一度、自分の中で、その言葉をよく味わってみます。難しい顔をして、父親として、夫として、その威厳を保ってきた私の心の中に、暗い、暗い、

真つ暗なエネルギーの塊があり、それがすべて、苦しい、苦しいと訴えています。寂しい、寂しいと訴えています。

この心を、私は、ぜひとも自分の転生に繋ぎ、そして、二五〇年後にお出会いをしたいと思えます。アルバートに出会う道を、厳しいかもしれませんが、私は歩いていこうと、今、思っています。

八三、****さん、ご主人と仲良く暮らしていますか。そして、心を見ておられますか。

はい、私は、****でございます。苦しい中から生まれてきたのですね。私も、今、そのことを感じています。今世も苦しかった。とても複雑な家庭環境の中で、私は、自分の心を苦しく、苦しく、落とし込めてきました。そして、この学びに繋がり、自分なりに自分の心を見て、田池先生を思ってきました。肉の田池先生を思って、私は嬉しい、私は嬉しい、そうやって、私は、今までやってきました。

私は、自分の心を、もう一步深く掘り下げていないことを、感じています。この学びに繋がって、自分の心を見て、幸せだと思えます。思いますが、私は、まだ、この肉の皮を破

っていない自分を感ずります。

確かに、私は、喜んでいます。学びに繋がつたこと、田池先生に出会つたこと、主人との仲も色々ありましたが、今は、すべてがよかつたと、私は喜んでいます。しかし、はてさて、それだけでいいのだろうか。今、私は、思うんです。

瞑想をして、異語を聞いて、学びに集えたことを喜んでいこう、それ以外は欲だなと思う思いもありますが、私は、まだ、私の中を、充分に見ているとは言えない、そんな気がしてなりません。

異語。

***さん、あなたは、他力の心を見てこられましたか。あなたの心の中には、嬉しいという思いが確かにあります。喜んでおられるあなたも感ずります。しかし、その一方で、心の奥底に、ヘドロのような真つ黒な塊を感ずります。その思いを、少し、自分の中で感ずっていきください。

あなたの喜びは、今よりも、数段大きくなつていきます。他力の思いをしつかりと自分の中で見ていくこと、それは、本当に大変な作業ですけれども、それが、大きな喜びへと繋がる

ことを、私はお伝えします。そうしていくことが、アルバートへの道だと私は思うのです。

八四、***さん、ご主人は変わられましたでしょうか。そして、あなたの心はどうでしょうか。今のあなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。私達ふたりは、とても苦しい苦しい人生を歩いてきました。この世的に見れば、一応の成功者だと思います。

地元では、私達は成功者だと、そのように皆さんに思われていると思います。子供達も、私達の後を継いで、今、自分の人生を歩いていってくれていると思います。

ですが、私達が、そこに至るまでの苦しい道のりは、とてもとても言葉では言い表すことができないほどの苦しみでございました。

もともと、私達の心の中には、他力のエネルギーがしっかりとあった、そのことを知らずに、私達は、金、金、金、金こそすべてを幸せにしてくれる、金さえあれば、私達は幸せになれる、そのように思ってきたのでございます。

私は、幸せにしてくれるものを求めて、あの人と結婚しました。ああでも、私の嫁ぎ先は、

とても厳しい状態でした。私は、心も身体も休まるときがございませんでした。後ろからせつつかれているようで、働け、働け、働け、その連続でございました。

もちろん、私自身も、色々な不満を心に溜めながらも、そうすることは、妻として、嫁としての私のしていくべきことだということを、疑いもせず、一生懸命、ただひたすら、毎日を過ごしております。

心には、不満、愚痴、その他諸々の思いが、溜まりに溜まり、私はお酒へと逃げていったこともございます。

主人は、とても冷たい人でした。私の思いを汲み取ろうともせず、お前は、俺についてくればそれでいいんだ。何も言うな。お前に何が分かる。

私は、そのように、いつも、そう主人の背中を見て、そして、舅、姑、多くの従業員達の世話をしながら、私の心は、置き去りにしたままでございました。

そんな中で、私達は、この学びに繋がらせていただきました。

初めは、他力の思いを見ていくこと、母親の反省を通して、心を見ていくこと、他力の心を見ていくこと、それすら、どこから始めていいのか、本当に、訳が分からない、そんな学びでした。

長く学びに参加させていただいていますが、最近ようやく、自分の心が、何もなくても幸

せだと、少しずつ思えるようになりました。

主人も、私に、優しく接してくれているように思います。互いに心を見る教材だ、そのように私達は、互いの肉を見ながら、自分の心を修正する方向にある自分達が、今幸せだと思います。

時間もありません。そして、身体もまだまだ元気です。この間に、私達は、なるべく学びに沿ったほうに、心に向けて、少しでも自分を修正していく方向に行かせていただきたいと思います。

今、あなた方の心にかかるものは、娘さんでしょうか。娘さんを不憫に思っておられますか。

はい、主人も同じかもしれません。私は、母親の立場から、娘は、やはり不憫だと思います。明るく振舞っているようですが、心の底から笑えないあの子を見るたびに、感じるたびに、やはり、母親として、不憫です。

すべて、あの子が選んでいく道です。あの子が予定してきた道です。

私達が口を出す、そのようなことはありませんが、できれば、そう、ここへ戻ってきてほしいというのが、私の思いだと思います。

***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、正直言つて、とても苦しいです、不安です。この先、あまり考えたくないんです。ただ、目の前の日々の生活に、心を向け、私は、あまり先を考えないようにしています。

異語。

心を見るために、今の境遇がある、これは、私が頭で知っていることです。でも、私の心は、その頭通りにいかないことは、感じています。

苦しい思いを、もつと吐き出したい。苦しい思いを吐き出したい。夫を恨む思い、夫に問いただしい思い、そして、いつそのこと、この場所を離れて、何もかも一から始めたい思い、そのような思いを、心から吐き出したいです。

異語。

八五、***さん、心につかんだチャネラーについての反省が、あなたの中でされましたか。あなたの心の中には、あの当時、心につかんだチャネラーへの思いが、まだしっかりと残っていると思います。その辺のところ、あなた自身、語ってみてください。

私は、***です。素晴らしい私になりました。神の声を聞く私になりました。母を見下げ続けてきました。母を超えていきたかった。私の中で、その思いがとても強いです。そうです、その思いのために、その思いがあるゆえに、私は、素晴らしい私になりました。

神の声を聞ける私になりました。心をもっともっと、敏感にして、あの人のように、あのチャネラーのように、私自身も、もっと素晴らしい、素晴らしい、私になりました。私は、そのように、今、振り返っています。

心の中を、厳しくは見ていません。はい、確かに、私は、自分の心を振り返ってきました。夫に対する心、母親に対する心、子供に対する思い、それらの思いは、すべて、私の中のアマテラスの心、アマテラスが、私を牛耳る心でございました。アマテラスの心のままに生きてきた心を、はい、肉の目の前の者に対して、私の思いをぶつけてきました。

その辺のところは、私自身、心を掘り下げて見てきたつもりです。

どれだけのすさまじい思いを出してきたか、私自身、見てきました。見てきたつもりです。ですが、その思いの奥底にある思いは…。

そう、私は、すべてを見下げ続けてきたんです。

私こそ素晴らしい、私は素晴らしい、私こそ神の声を聞く者、私が、神の御許に仕え、我こそ素晴らしい神になる。その思いを秘めて生きてきました。

だから、私は、あの当時、心に入れたチャネラーを、チャネラーに対する思いを、まだ自分の中で見ておりません。見るのが怖いんです。

幾度か、苦しい意識を聞きました。ああ、あの人も苦しかったんだなあ、そう、思えます。思えるけれど、私は、私の心は、握っています。

それは、過去から続いてきた私の心癖。私が、そうやって、神へ、神へと思いを広げてきました。

異語。

あなたの神は、やはり、アマテラスですね。アマテラスを神として仕えてきたその心のま
まに、ずっと、あなたは、転生を繰り返してきました。

異語。

八六、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。心の中に神を作ってまいりました。他力の神を作ってまいりました。私は、他力の神の世界を広げました。

****の世界を広げました。この肉を誇るとともに、私は、パワーを求めてきました。寂しかったからです。お母さん、寂しかった。お母さん、寂しかった。どれだけこの心をお母さんに向けてきたか、なのに、あなたは、何も応えてくれなかった。その恨みつらみが、まだ私の心の中には、たくさんございます。私は、その思いを異性に向けました。

異性に向けました。とても、とても、寂しかったからです。

ああ、この心も身体も癒してほしかった。私は、そのような思いで、ずっと、ずっと生きてまいりました。

異語。

***さん、心を田池留吉に向けてみてください。

異語。

田池留吉、お前なんかくそつたれ。くそつたれ。お前なんか、死ね、死ね、死ね、死ね。ああそのような思いを、私は、常に広げてきました。田池留吉の優しさも温もりも、何もかも、私には信じられなかった。

この心でずっとずっとセミナーに通い続けてきました。私の心の中に広がる思いは、寂しさでございます。寂しさを埋めてくれるために、セミナーに集ってきた、私の動機は間違っておりまして。

八七、***さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。暗い、暗い、真っ黒な心の世界の中で、少しだけ、ほんの少しだけ明るさを見出しています。

私は、間違つてきました。お母さん、間違つてきた。優しいお母さんだった。なのに、私は、お母さんを見下し、足蹴にしてきました。この心をあなたは、この心を見ていきなさい、お母さんにそう言われました。

そのことを少しだけ感じさせていただきました。瞑想をする中で、私は、そのことを、少しだけ感じさせていただきました。

でも、日常の中に戻ると、私は、また真っ黒な私を感じ、私は落ち込みます。その繰り返しです。でも、いいんです。今、少しずつ、少しずつ、幸せを感じています。肉のことを整えなかった。恵まれた環境にしたかった。私は、その肉の環境を整えたかった思いが、とても強かったです。

でも、私には、私の心を見るために、すべてが必要だった。あの夫も、子供もすべてが必要でした。

そして、私のこの肉、肉が、本当に今あることが、とても不思議です。

不思議なくらい、不思議なくらい、嬉しいです。肉がある私を思うとき、とても嬉しい、ありがとうございます。

八八、****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。どんどんどんどん、心に感じる世界があります。でも私は、その一方で、自分の心に、とても大きなブラックを感じ、その中に自分がどんどんどんどん落ちていくような、不安、恐怖があります。

心に感じる不安と恐怖、それを今、どのようにすればいいのか、私は分かりません。お母さんの反省、そう、お母さんの反省ですよ。お母さんに、どんな心を使ってきたか見つめていく、その方法しかないんですよ。

異語。

そうですね。****さん、あなたを生んでくださったお母さんを、まず思ってみてください。お母さんに、どんな心を使っただけでしたか。どうぞ、自分の中で、素直に、素直に、広げてみてください。

異語。

ああ、私にはふさわしくない母親だと思ってきました。私は、あんな母親から生まれたくはなかった。私にはふさわしくない、そう、私にはふさわしくない母親でした。私は、あんな母親大嫌いでした。とても、とても、嫌いでした。みすぼらしく汚くて、ああ、私は、嫌い、嫌い、そんな思いが出てくるんです。私の中から出てくるんです。なぜでしょうか。肉の私は、そんなこと思っていないと思います。でも、私の中から、どんどん出てきます。これは、私の過去からの思いでしょうか。

こういう思いも、すべて、受け入れていける心を作っていけばいいんですね。

異語。

****さん、田池留吉を思ってみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん…。はい、お母さん…。はい、お母さん…。

私は、お母さん、幸せになりました。幸せになりました。本当に幸せになりました。だから、私は、パワーを求めてきました。お母さん、私は、幸せになりました、ただただ幸せになりました。私の思いを聞いてくれるところを探しました…。

八九、****さん、今、あなたは、どこに心を向けていますか。

私は、****でございます。どこに心を向けているかって、私は、一生懸命にこの学びをやるうとしています。いいえ、そうではなかった。

私は、やはり、この身を誇りたかった。私の素晴らしさを認めさせたかった。周りのみんなに認めさせたかった。私は、だから、そのために、自分のすべてを使ってきました。私のエネルギーをすべて、そちらに注いできました。そして、その片隅で、チョココンとこの学びを続けてきました。この学びを離すことはできません。私は、欲がいっぱいでございます。

離すと怖いんです。恐怖の思いもあります。でも、欲の思いが、もつともつとすごいです。

この学びから、何か自分のプラスになるものはないか、私は、目を皿のようにして、そう、そのような思いで、この学びにしがみついています。そんな私が、今、自分を語るとき、とてもバカらしく感じます。バカだなあつて、自分で思います。そんなことをしなくても、私は、私の中を見ればいいのに。私の中に、いっぱい、いっぱい詰まっている私を見ればいいのに、そんな思いが聞こえてくるような気がします。

***、大バカ者でございます。でも私にも、家族があります。生活があります。その中で、この学びを続けていくのは、とても困難なことだと感じているのは、事実です。

私に、何か示してほしい、何か私のこれから先の行く末を、示してほしい、そんな思いで、名乗りを上げました。ああ、今、自分を語れば、語るほど、バカらしい自分が見えてきます。

***さん、そのようにして、あなたは、あなたの心を素直に、有りのままに、見ていってください。あなたの心の中から、どんどんどんどん自分の思いが湧き上がってくると思えます。仕事をして結構。何をしてダメだという学びではありません。でも、心を見ること、自分の心の中に向けること、そのことにエネルギーを注ぐこと、それを忘れないでください。

そうすれば、片手間ではできないことだと、あなた自身感じてくるでしょう。その時、あなたは、どうするでしょうか。それも、あなたが決めていくことです。そう、今は、あなたが、

あなたの心を見る、その訓練をなさってください。

九〇、***さん、心を語ってみてください。

はい、私は、***でございます。そびえ立ちは当たり前でございます。己が偉い私は当たり前でした。当たり前を当たり前だと思つて、なおさら、そびえ立ち、己が偉くなつてしまいました。心を見るといつても、とても、高いところから、私の心を少し覗いてきただけでした。そのことを少しだけ、感じさせていただきました。お母さんを思うとき、私の心に響いてくるものは、やはり、すごいエネルギーです。

母の温もりを蹴散らしてきた私にとって、母など要らぬと、どれだけ心で叫んできたか、私は、それほど、自分が立派だったのです。

お母さんから生まれてきた、肉体をいただいた、その原点を忘れていました。私の意識は、本当に、地に落ちて、落ちて、落ちまくった。もうどうしようもない意識でございました。

田池留吉、ようやく、私は、そのことを、今世、この学びに繋がつて、ほんの少しですが、感じさせていただいています。

****、変わっていききたい、心より、そう思います。

異語。

****さん、ご主人や子供さんに対して、肉のあなたは、どのような接し方をされているのでしょうか。ご主人や子供さんに、ありがとう、心からありがとう、そう言えるあなたになつてください。

心からありがとう、です。それしかありません。

ご主人も子供さんも、あなたにとって、かけがえのない人達です。それは、もちろん、肉の思いからそう言っているではありません。あなたを知らしめる素晴らしい教材、これほどの愛は…、と私は思います。

九一、****さん、他力の反省を進めていますか。

私は、****でございます。はい、他力の反省、難しいですね。心に溜め込んできた工

ネルギーを、自分の中で見ていく、お母さんの温もりに照らしながら、自分の中を見ていく、すべてが他力だから、それは、とても、難しい作業です。ああ、でも私は、今、自分の時間の中で、それをやっていこうと思います。

私の中に、必ず、本当の優しさ、本当の温もりがあった、そのことに出会いたい、そういう自分を信じていこうと思っっています。他力の心を積み上げてきたのは、私自身です。本当の自分を忘れたから、私は、ずっと幸せではありませんでした。ようやく、それがほんの少しですが、自分の心に響いてくるまでになりました。

間違ってきた道を歩いてきたのは、私。誰のせいでもありませんでした。そう、私が選んできた道でした。

異語。

***さん、田池留吉を思っみてください。

お母さん、お母さん。お母さんってなかなか呼べなかった。あまりにも私は、偉すぎました。お母さんって、素直に呼べなかった。でも今、田池留吉の目を見つめながら、お母さんって呼

んでいる私を感じます。嬉しいです。田池留吉に対して、歯向かってきた。いいえ、まだまだこのエネルギーが中にあるけれど、今は、それも、この私に気付かせるためのものだった、それを感じています。田池留吉、お母さん、瞑想を続けてまいります。

九二、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。心を見ようとしています。私の中は、今、自分がどのような思いを出しているのか、私の心の中を、自分の中を見ていくのは、とても難しいということ、私は知りました。

皆さんが、私は己が偉いとか、そびえ立っているとか、そういう表現をされていますが、本当に、私も、自分がどれほどそびえ立っていたのか、己が偉かったのか、私は、しみじみ、つくづく感じているところです。

あまりにも偉すぎて、自分の心が分からなかった。自分が分からなかった。それが、私の現状でございます。

私は、やってきていると思ってきました。学びをやっていると思ってきました。ああでも、

この学びでいう、やってきているというのは、意識の転回を言うんですね。私は、本当に、他力信仰の延長で、この学びをとらえていたことを、心で感じています。

はい、形を整えようとしてきました。心を見て、自分を律してきただけでございました。自分の心の冷たさ、すごさ、どうしようもない自分の愚かさ、そういうものに、すべて、私は、蓋をしていました。

いいえ、肉の私は、さらけ出したい、さらけ出したいと思っていても、私の本音はそうではありませんでした。ああ、私は、そのことを、今、自分と自分の中で語ることにより、そう感じていきます。

娘のエネルギーのすごさに、私は、なぜこんな、すごいエネルギーを出しているのかとさえ、思ってきました。

ああでも、それは、私も同じだったんです。私は、決して同じだとは思いませんでした。私の中を見ていなかったからです。

異語。

はい、***さん、あなたは、田池留吉の目を見て、どのような世界を感じていますか。

はい、私は****。とてつもないエネルギーを蓄えてまいりました。お前の幸せは、わしが握っている。わしに逆らうな。お前を地獄に落としてやる。私の言うことを聞いていれればいい。私に心を向けよ。田池留吉に心を向けるでない。私を敬え、崇めよ。私にひれ伏せ。

どうでしょうか。あなたの心の中にある他力のエネルギーが語っているのを、あなたは、ご存知でしたでしょうか。すごいんですよ。他力のエネルギーを甘く見ないでくださいとメッセージがありましたね。

どうぞ、心をしつかりと見ていってください。あなたも感じておられるように、娘さんの姿は、あなたの意識の世界でございます。あなた自身でございます。エネルギーは、同じでございます。

九三、****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。難しく、難しく考えていました。私のこの頭で難しく、難しく考え

ていました。いつも暗い顔をして、そして、自分の心を見ているようなふりをしてきました。私は、とても暗かったです。今、それを感じます。この頃、私は感じます、ああ、私は、暗かったなあ、そう感じています。

心に響くものを、ただ肉の私は、素直に、それを認めていけばいいだけでした。認めるというよりも、素直に見つめて、ただ、優しい思いでそれを見つめているだけでよかったです。それを私は…。

やはり、私は、己が偉かったんですね。色々な心を感じ、色々なものを感じてきたけれど、私は、優しい思いを向けることをしてきませんでした。そして、暗いほうへ、暗いほうへ、自分を引っ張っていくエネルギーに、私は、流されていったような気がします。

異語。

***さん、田池留吉のことをどのように思っていますか。

異語。

はい、私に、本当のことを教えてくださった先生を、私は、とても仰ぎ見ておりました。近寄り難い存在でした。ああ、そう、私は、そうです、やはり、田池留吉を上置いていました。ということは、私は、田池留吉を見下していたのですね。上に置くことも、下に置くことも、同じ心だったということを感じます。

私の中に、タイケトメキチ、本当の私が存在していることを、先生は、肉を通して、伝えてくれました。しかし、私の中では、距離がありました。すべて肉でとらえようとしてきたからです。

田池留吉を上置いてても下に置いてても、何も分からなかった。そうだったんですね。今、そう思います。

異語。

九四、****さん、心を向けてみてください。そして、あなた自身を語ってみてください。

私は、****でございます。私の中にもすごいエネルギーが詰まっているのでしょいか。

私は、宇宙のパワーが大好きです。宇宙のパワーを求めてきた。古いやら、おまじないやら、色々なものに心を向けてきました。神秘的な世界がとても好きでした。小さい頃からそうでした。

私は、自分の心を見る、そういうことを初めて聞き、自分の中にあつたその思いを今、思いついています。なぜ私は、そういうものに、心惹かれてきたのだろうか。そう、私は、不思議な世界が知りたかつたんです。人間の心の中というよりも、何か、そう、やはり、宇宙ですよ。

宇宙には、私達の知らない世界がある。その世界を私は、知りたかつた。ああ、これが、宇宙のパワーを求める心に、繋がるのでしょうか。

今、私は、それがまだはつきり分かりません。ああ、でも、宇宙のパワーを心に求めてきたことは、間違いがないと思います。

今、宇宙のパワーと言うだけで、とても重苦しいものを感じます。これだけ、重苦しいものを感じながら、私は、私の心を置き去りにしてきたんですね。今、そのように思います。

異語。

お母さんをどのように思っておられますか。

****、私は、****。はい、はい、私も、あんな母親から生まれてきたことが信じられないくらい、私は、母親を嫌ってきました。どうして、私の母親は、あんな母親なのか、私は、その思いとともにずっと生きてきたような気がします。

お母さん、お母さんは素晴らしい人ではありませんでした。私にふさわしく、素晴らしい人であればなりませんでした。

どんな時も、素晴らしい、素晴らしい人であればならなかった。私は、いつもその期待を裏切られてきました。だから、母親を思うことが、とても嫌です。母を思うとき、私のこの心から、恨みや憎しみや、そう、落胆する思いなどが出てきます。

異語。

色々なことを体験されて、これからあなたは、どんどんどんどん、自分の中で感じていかれると思います。その中で、あなたは、いったい何を選んでいくのでしょうか。やはり、宇宙のパワーでしょうか。あるいは、占いや、そういう方向に進んでいかれるのでしょうか。

自分の岐路に立ったときに、ぜひとも、そういうものを求めずに、ただただ、自分の心に

素直になってください。

自分の心を見て、お母さんに使ってきた心を振り返ったときに出てくる思いを、また自分の中で見つめ直してという、そういう繰り返しをして、自分の優しい思い、素直な思いに従っていくように、なさればいいと思います。

宇宙のパワーや、そういうものを求めて、おもしろおかしく人生を生きていくのも、あなたの選択肢のひとつかもしれない。でも、その過ちをあなたは、何度も、何度も繰り返ししてきました。どうぞ、心を見ていってください。自分自身の大きな、大きな、過ちに、その過程で気付いていってください。

九五、***さん、あなたはパワーを求めてきましたね。そのところの反省は、どの程度に進んでいますでしょうか。

はい、私は***です。私もパワーを求めてきました。そうです、パワーを求めてきた者でございます。何度転生をしても、この心の中に、パワーを求め、己を高く、高く、掲げてまいりました。今世は、その自分の過ちに気付いていくために、私は、自分の肉の仕事として、

そういうものを通じることを選んできました。

心をどこに向けるか、学びに繋がるまでは、全く、いい加減でございました。本当に心はどこに向けるか、それが、一番大切なことだったんですね。いつも、いつも、向けてきた先は、言わずと知れたこと、ブラックの世界でした。私は、そう、母親の温もりを忘れ去って、そんな心の世界で、ずっと生き続けてきたからです。大変な道のりでした。

学びに繋がってからも、自分の中のエネルギーを感じながら、そのエネルギーをまた、押さえ込むエネルギーで、自分をがんじがらめにしてきました。それがとても苦しかったです。ああ、苦しかった。心を解き放つ学びに繋がったけれど、私の心に積もりに積もったエネルギーを解き放つ、それは、私にとって、難しいものでした。

異語。

田池留吉を思ってください。

異語。

はい、田池留吉、田池留吉、とても、とても、とても、己が偉かった。偉すぎて、本当に偉すぎました。心をお母さんに向けることを、私はしてきませんでした。母の温もりを蹴散らしてきた、全く、その通りでした。皆さんがそのような反省をされているのに、私は、やはり、他人事ひとごとでございました。

今、自分の心の中に感じる思いは、すごいエネルギーです。

田池留吉、お前を殺してやる。

はい、すさまじいエネルギーとともに、私は、母から生まれてきた。このことを忘れておりました。

九六、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は***でございます。田池留吉、私は、私の心が分からなくなりました。今は、少し落ちています。だから、私は、私の心が分からなくなつて当然なんです。私は、今、肉の生活を立て直そうと、一生懸命になっています。ようやく、普通の生活をしていけるようになりました。

母にも周りの人達にも、たくさん、色々迷惑をかけたけれど、私は、ようやく、自分の生活の立て直しが、少しできたかなあというところなんです。

そうしてくると、私は、自分の心の世界というか、そのところが、少しぼやけてしまつて、私の中がはつきりしません。

おそらく、私の中は、色々なものを感じているんでしょうが、肉の思いというか、その思いを上にかぶせて、そして、それで、はつきり分からないようにしているんだと思います。

ああ、でもこの心の中から、色々なものが聞こえてきます。蠢いているのが分かります。私は、その自分を置いてきぼりにしてきた、今、そう感じます。

心が敏感で大変なときは、それに振り回されていたけれど、今、少し、肉のこともできるよになつている状態の中で、私は、自分の心の中を受け入れていくことをしていないと感じています。

自分に自分が振り回されているときは、もうそれだけで大変でした。その收拾に大変でした。でも、今、それが納まつてきても、私は何一つ、自分の中を受け入れてこなかったから、心の奥の奥では、前と変わらない状態なので、その思いが私の中で、蠢いているのが分かります。

だから、ふっと思うと、不安なんです。どうすればいいのか分からない。周りの人に、こんなこと言つても、誰も、私を感じているものを理解してくれる人はいない。だから、私は、

田池先生に、何か、いいアドバイスがないかと思い、手紙を出しました。

はい、***さん、あなたの学びは、これからでしょう。あなたは、あなたを受け入れていく作業をこれから進めていくんです。

お母さんに使ってきた心を、しっかりと見て、そして、自分の中に、本当の優しさや、本当の温もりがあることを、信じていくことです。それがあなたのこれからの大きなポイントになります。

今までは、ただあなたは、あなた自身を振り回していただけです。そこから、少し距離を置いて、自分を見つめるという時間が、あなたはこれから必要になります。そうした時、しっかりと学びの手順に従っていかないと、あなたは、また、前のあなたに逆戻りしてしまうでしょう。

それは、あなたの中に、学びの基礎がないからです。本が出ています。学びのポイントや、正しい瞑想の仕方の小冊子も出ています。どうぞ、しっかりと勉強なさってください。

心が敏感で、自分自身に振り回されていても、勉強はできません。しかし、その自分に肉の思いをかぶせてしまっても、これもまた勉強ができません。そういうところを、あなた自身これから、どのように学びを進めていけるか、一番大きなポイントだと思います。

九七、***さん、お身体の調子はどうでしょうか。そして、お母さんにどのような心を使ってきたか、自分で振り返られましたか。

はい、私は思いもかけない時間をいただきました。その中で、お母さんの反省をしなければならぬですね。お母さんに使ってきた心を、自分なりに振り返っておりますが、今ひとつ、私は、よく分かっています。

私は、今、このように語ったときに、自分の心の中に、他力のエネルギーがしっかりと詰まっていると感じました。他力でございます。

この身体を、この肉の命を救ってくださいと、私は、その思いがとても強かった。自分の間違いに気付くために、あなたは時間を少し先に伸ばしていただいたんですよ、そういうふうには、私は、思えないんです。

その時は、確かに喜びました。ああ、私に、少し時間をもらった。だから、この学びをやっていたら、私は、その時は、喜びがありました。

でも、少し時間が経つてくると、私の中の他力のエネルギーが、やはり、前面に出てきます。

本当に喉元を過ぎればという表現がピッタリの私でございます。今、心を語ってみてくださいと促しがありました。そうでした。私は、母親の反省をする、そして、自分の心の中を振り返る、そのために、時間を与えられたのです。お母さん、ごめんなさい。どうしても、その思いが自分の中で流されていくのが分かります。

はい、でも、私は、このことをきっかけに、もう一度やってみます。

自分の病気に関して奇跡が起こった、そういうことではなかったんです。ただ自分に自分を振り返る時間を用意した、そうだったんですね。その思いを、真面目に受け止めて、私は、これから、少しずつでもやっていこうと思います。

九八、****さん、どうぞ、あなたの心を語ってみてください。

私は、****でございます。心が寂しい、寂しい、寂しい。心が寂しい、寂しい、寂しい。誰か私の心を聞いとくれ。私は、心が寂しいです。寂しいです。ああ、私は、今、どこにいるのでしょうか。

私の周りには何も無い、何もありません。ああ、でもその中で、私は、そうだ、私は、苦

しかったなあ。一生懸命に生活してきたけれど、苦しかった。自分の心の苦しさを、今、私は見えています。

身体が自由に動かないけれど、私は、今、自分の時間をもらっているような気がします。何で、私はまだ生きているのだろうか。自由にならない身体を見つめてはそう思います。でも、私には必要な時間なのです。そう思います。

異語。

***さん、お母さんを思ってみてください。あなたを生んでくださったお母さんを思ってください。

異語。

お母さん、お母さん、はい、小さな頃は幸せだったなあ。お母さん、私は、幸せなときがありました。今、お母さんといっしょに遊んでいたときの私を思っています。

異語。

***さん、もう少し、何か語ってみてはどうでしょうか。

はい、私は、もう早く…。

はい、私は、自分の思いを語ることをしてきませんでした。口を開けば、どうでもいいようなことばかりを言ってきたような気がします。

自分が本当に言いたかったことを、言っただけで済んだような、そんな人生だった。今、私は、自分を語りなさいと言ってくれているけれど、何から語ればいいのか分からないくらい、私の心の中には、たくさん、たくさん、たくさん、詰まっています。この心がとても重いです。

この心を、軽くしたい、でも私は、それをしてこなかったです。

九九、***さん、***さん、大宝に移り住まれてから、年月が流れています。今、どのような思いでおられますか。

はい、私は、***でございます。私達夫婦の環境が変わりました。最初は、重い荷物を背負い込むようで、心が真っ暗になりました。心が、暗く、暗く沈んでいきました。私は、この人とうまくやっていけるんだろうか、そう、私には、自信がなかったんです。

そう、私は、本当にどうしようかと思いました。私には、全く自信がなかったんです。ああ、でも、その通りでした。私の己偉い心を、そのまま見せていただきました。自分の中を崩すように、崩すように、あの方はなさってくれました。心が乱れました。心が苦しかったです。どんなにしても、この心の苦しみをどうすることもできなかつた。どれだけ思いを向けようとも、私の中には、優しい思いなど、微塵も湧いて出てこなかつた。ああ…。

時間が経ち、そして、そう、時間が経ちました。その間に、私自身の身体にも、色々不都合が起きました。私は、自分は本当に、自分の心を見ざるを得ない状況に、自分があるというのを、心で知ったのです。

苦しいのは、私です。苦しいのは私でした。私の心でした。私は、己が偉かった。偉かったです。

異語。

あなたは、以前に、東の横綱だと言われてきたそうですね。その当時のことを思い、今を思い、あなたを語ってみてください。

私こそ、一番のチャネラー、私こそ、一番、一番、私は素晴らしい、そのように君臨してきた私がありました。

今思えば、お恥ずかしいお粗末な自分を感じます。何をもってして一番だと言えるのか、私は、本当に恥ずかしい限りでございます。

自分の心でさえ、こんなに貧しかった。それを、見ようともしないで、私は、一番、一番を誇ってまいりました。

とても、とても、墮落した自分の心を感じています。今は、ほんの少しではありますが、心に、ああ、こんな自分でよかったんだ、今の環境が自分を、本来の自分に戻す、そう、きっかけを作ってくれた、今、そのように思っています。

はい、私を慕ってくる人も、たくさんいます。その中で、私は、やはり、自分を見つめています。厳しく、そう、今度こそ、自分を厳しく見つめていこうとしています。私は、あの人達の中で、一番ではないんだ、みんな、同じだ、同じなんだ。私は、心に感じていることを、上から物申すのではなくて、同じところから、いいえ、それよりも、下から、私は、接していかなければ

ならない、そのように、今思える自分があることが、嬉しいです。

異語。

一〇〇、****さん、心を語ってみてください。

私は、****です。私も、たくさんのチャネラーと同じく、己を表してまいりました。はい、誰よりも、誰よりも認めてほしかった。

私の心の中に、その思いを強く、強く抱いておりました。

ああ、私は、そう、母に認めてほしかったんです。お母さんに認められたかった。その思いを、そのまま、この学びにも、その心そのまま、きました。心を縛ることが大好きでした。

正しい方向に、自分の心を向けていくということを、私は勘違いしておりました。自分の心を縛っておりました。私は、自分の心を縛って生きてきたんです。

ああでも、そのことが、どれだけ苦しかったのか。

母の反省を通し、他力の反省を通し、その中で培ってきた自分のエネルギーを感じ、この

エネルギーこそが、自分を苦しめているんだ、私は、そう感じてきました。

己を表すことしかなかった私に、大きな気付きをいただきました。

どれだけ、心が反発していったか、その反発のエネルギーを、私は押し隠してきたのでした。今は、ただ、目を閉じて、お母さん、ありがとうって素直に言える私があります。立派な私を掲げなくてもよかったです。私は、お母さんに認められておりました。それに、なかなか気付けなかった私でした。

一〇一、***さん、アマテラスについて、あなたの思いを語ってみてください。

はい、私は、○○○○でアマテラスに対する私の思いを、今世もまた膨らませ続けてきました。アマテラスに対する思いは、とても強いものがございます。アマテラスにひれ伏してきた意識でございます。

そして、私は、学びに繋がりながら、この心を、アマテラスに対する思いを、自分なりに見てきたつもりですが、そのとても強いところを、私は、まだまだクリアできておりません。

なぜならば、アマテラスのパワーを利用してきただけからです。己を表していきただけ

った。アマテラスにひれ伏しながら、私は、己のパワーをこの宇宙に広めていきたくったのです。アマテラスをも上回る私のエネルギーを、宇宙に知らしめたかった。この心の底にある思いに、私自身まだ触れておりません。だから、私のアマテラスに対する反省は、なかなか捗りません。

私は、自分をさらけ出すことに対して、やはり、躊躇しています。肉は、もちろん、自分の思いをすべてさらけ出したいと思っています。

しかし、私の意識は、まだまだ、まだまだ、私は私を崩してなるものか、その思いがとても強いです。

アマテラスにひれ伏す、いいえ、アマテラスを利用してきた、その思いのほうが大きいです。

異語。

***さん、田池留吉に思いを向けてみてください。

田池留吉、お前は、私の何を語ろうとするのか。お前の目を見ると、私は、とても苦しくなる。

とてもとても苦しくなる。ああ、でも、お前の目は、私をじつと見ているではないか。心を開きなさい。心を開いてすべてを語りなさい。苦しみを、あなた自身の愚かさを、自分で見てください。そのように私に伝わってきます。

異語。

私は田池留吉を肉としてとらえています。意識、波動、心、田池留吉の世界、すべて肉で
ございます。

一〇二、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****です。つまらない肉を掲げてきた自分を感ずます。下らない肉でした。でも、その肉がとても大切だということを、私は、日々の生活の中で感じています。日頃すごいエネルギーを使っています。

生活の中でずつと使う思いは、すごいです。

私は、これだけすごいエネルギーを蓄えてきた。それを実感する毎日です。でも、この肉体、形が、今、私にあるから、そのエネルギーをもろに感じられることが、嬉しくなってきました。以前は、それがとても苦しくて、自分の心を見ることが嫌でした。己を立派にしたかった。自分が認められることならば、心を向けるけれども、自分を認めないものに対しては、徹底的に歯向かってきました。

私は、素晴らしい、素晴らしいと、そう認められたかったです。ああ、でも、自分の中を見ていくと、とてもそんなことは言えない。それがようやく、ようやく、私の心の中に響いてまいりました。

異語。

***さん、どんどんどんどん心を見ていってください。そして、あなたの来世に思いを向けてみてください。

異語。

今世、学びに繋がった私、よかったと思っています。ひとつ、ふたつの転生を重ね、必ず心を繋いでいくことを、私自身に、約束しました。

心を見てまいります。お母さん、待っていてください。心を見てまいります。愚かでございました。優しい私を信じて、ただただ心を見てまいります。

一〇三、 ***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。幸せになりたかった、幸せにしてください、幸せになりたかった、幸せにしてください、この繰り返しでございます。私の心の中は、そう、この繰り返しです。

幸せにしてください、幸せになりたかった、そうやって、いつも、手を合わせていました。手を合わせて、私は、そう願ってきました。

なのに、私は、今、とても苦しいと感じます。

幸せにしてください、幸せになりたかった、この思いを語るとき、自分の中に苦しみが広がっていきま

お母さんを、お母さんを恨む思いが広がっていく。

ああどうして、私の心は、こんなに苦しいのだろうか。

幸せにしてください、幸せになりたかった、そうやって、私の心は、どんどんどんどん、苦しい方向に落ちていきました。それが私の過去でございます。

異語。

***さん、正直申しまして、あなたの年齢になれば、心を見るということは、大変難しいことだと思います。なぜならば、心を見るには、大変なエネルギーが要るからです。自分の心の中に培ってきたエネルギーを、自分の中で広げていくには、それなりの体力と気力が要ります。

これは、どなたも同じです。

学びに繋がって喜んでおられるかもしれませんが、実際に自分の心の中を見る、それは、そう、とても大変なことなのです。

ですが、もうあなたは、学びに繋がったのです。難しいから…、ダメだから…と、放り投げたり、諦めたりしないでください。

あなたには、これからの転生が待っています。どうぞ、今世、何かひとつでもいいです。自分の心癖を緩める方向に、学んでいってください。

期待を持たせることは、私は、申し上げることはできません。

たったひとつでもいいのです。あなた自身の心癖を弱める、そのような学び方をなさってください。

一〇四、***さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***でございます。心を見るとか、お母さんの反省、他力の反省、自分の中で初めて聞く言葉でございました。

自分の中を見るとは、どのようにするのか。

ああ、夫に使った心を見てみようと思うけれど、私の心から出る思いは、すごいものばかりでした。

夫に優しく接する自分の思いの中には、あそこにもここにも、欲の思いが散らばっていることを感じます。

すべてが欲で満たされているような気がします。

自分にとって都合のいいこと、それを私は満たしてほしいから、夫の言うことを聞く、夫の世話をする、そのような私であったのかと思います。

こんな思いを、私は、自分の中で見ていかなければならないのでしょうか。

思いを辿っていくと、自分、自分、私、私、私、そればかりしか見えません。

いつも、私が中心で、私のことだけを思っている、そんな自己中心的な私しか感じられない、今、私は、そのように思っています。

****さん、奥さんは、このように語られましたが、あなたは、どうでしょうか。心を覗いてみてください。

はい、私も同じです。いつも自分中心にこの世が動いているような、そんな感じできました。だから、心が、私の中では、いつも、なんとというか落ち着かなかった。怒りが出てみたり、ぶつぶつ文句を言ってみたり、そうですね、心の中は、そんな思いが蓄積されているような気がします。

でも、しようがないと思います。今の世の中、みんながみんなそうじゃないですか。みんな、

自分と自分の家族、いいえ、自分だけのことを考えて、朝から晩まで、そのままの状態で、みんないるんじゃないでしょうか。

私は、そのように思います。

そして、ずっと、ずっと、自分を見てみると、心の中に、まだまだ微かにしか感じられないけれど、寂しい心があります。暗くてどうしようもない自分の塊のようなものを、遠くに、遠くに感じている私がある。

でも、そんなものを持ち出しても、自分の今現在、どうなるものでもないし、ただただ、この身を安楽に、楽しく、そういう方向にばかり、私の心は向いているような気がします。

異語。

自分は、何のために生まれてきたのか。何のために、今の生活があって、そして、これから自分はどういう時間を持つていくのだろうか。

足を止めて、そういうことを考える時間を持つには、やはり、それぞれがそれぞれに見合った現象というものが必要になってきます。

もちろん、今までも、色々なことがそれぞれにあったと思います。でも、足を止めて、そ

ういうことを考えるに至っていません。

それほどもう、肉、肉、肉の中に埋もれてきた自分達であった、そのことをこの学びに繋がって、どうぞ、自分の心を見ることによって、自分の心で感じていってください。

生活は生活です。肉を維持していかねければなりません。そのためには、お金が必要ですよ。

しかし、自分は何のために生まれてきたのか、これから、自分はどこへ行くのだろうか、どういう世界が待っているのだろうか。ふと、あなたは、そういうことを思いませんか。

いいえ、ぜひ、毎日の生活の中で、そういうことを思ってください。

そう、瞑想する時間を持つてください。瞑想とは、初めは、静かに目を閉じる時間、そういう時間と空間を持つこと、それから始めてください。

最初から、多くを望まないでください。ただそういう時間と空間の中に、自分を置く、そのような生活を考えてみてください。

一〇五、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、****でございます。私は、自分が鈍感だ、鈍感だと思ってきました。それは違

っていました。私が心を向けようとしなかったからです。

自分自身が心を向けようとしてこなかったからです。

心の中には、私もすごいエネルギーを蓄えています。積もりに積もったエネルギーが爆発しそうです。それを、私は、必死に押さえまいました。

妻の様子を見てきたからです。妻の状態を見てきたからです。私は、あのような自分になりたくはなかった。とても不安と恐怖を覚えました。

そして、やはり己偉い自分を感じてきました。自分のエネルギーに振り回されている妻を見てきました。私は、その妻を見ながら、自分の心をずっと、ずっと、ずっと、奥の、奥のほうに押さえ込んできた。そう、私は、今感じています。

はい、***さん、あなたのお母さんについて、思いを語ってみてください。

はい、母は、この年まで肉体を持ってきています。私が母に対して、どのような思いを広げてきたか、その思いを真剣に見ていこうとするまで、母は、この世を去らないのだと思います。母は母で、自分の予定があると思いますが、私は、そのように、母を見て感じます。

母を見て、とてもとても苦しい自分を感じます。

母を労わる思いはあります。母に対して、ありがとうという思いもあります。私は、あの母親がとても好きです。でも、その好きだという心の裏側に、大きな、大きな、母に対しての思いが隠されていることを、私は、もう自分の中で、しっかりと見ていかなければならないと思っています。

異語。

***さん、ゆっくりでいいんです。焦らずに、しかし、しっかりと、自分の思いを見ていってください。お母さんに対する思い、そのお母さんにぶつけてきたエネルギーを自分の中で感じていってください。

できれば、あなたの思いを、何かに書き留めるか、自分の口から、異語でいいです、どんどんどんどんあなたの口から吐き出すことが必要だと思います。はい、ここで語ってもいいですが、ここで語ることを、あなたは、まだまだ理解できないと思います。肉のあなたが、それを阻止するようなエネルギーを感じます。ですから、あなた自身、あなたの中で、お母さんに対する思いを、正直にさらけ出してみてください。

一〇六、***さん、心を語ってみてください。

私は、***でございます。心の中の寂しさを紛らわすために、パワーを求めてきた転生を繰り返してきました。私も、全くその通りでございます。パワーを求めてきました。心が寂しかったからです。自分を癒してくれるものを探してきました。最後に残ったものは、私の中のパワーを求める心でございました。すべてに裏切られました。何もかも、私の心から奪い取っていきました。でも、私の中のパワー、そう、私を支えてくれる私、その私が、今、心から語るのです。でも、私は、それが、ブラックであることに、気付いておりませんでした。

自分の中からも、色々なものが語ってくることを、私は、感じていました。でも、私は、それがブラックだとは、私自身気付いておりませんでした。

私の強い味方であって、私のことをよく知っていて、そして、私をいつも、慰め癒してくれるものだと、私は、思っていました。

そんな私は、私とずっと一体化してきました。それが、私のパワーを求める心でございました。そして、その心が、今世の肉を持たせました。自分の心を見る学びに繋がりました。一体化した心を見ることは、私にとって困難なことでした。

今、私が私を語っていても、まだまだ私の心の奥深くに響いているとは、言いがたいです。それほど、私は、私と一体化している私を、全然知りませんでした。今、そのように感じています。

異語。

お母さんの反省をやってこられましたか。お母さんと思えば、あなたは、どのような思いを感じられるでしょうか。

はい、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん。ああ、やはりお母さんを寂しいから求めてきた私の中に、お母さんは、何も応えてくれなかったという思いがとても深いものがあります。だから、お母さんを恨んで憎んできました。お母さんは、私を救ってくれなかった。私の言うことを聞いてくれなかった。そんな思いを感じてきました。私の中が、間違っていたから、お母さんに苦しい思いをぶつけてきたただけでした。それが私は、全く分かりませんでした。

一〇七、 ****さん、あなたの今の心を語ってみてください。

はい、私は****です。自分で蒔いた種とはいえ、私は、随分遠回りをしてきました。でも、自分にとつて、これが一番よかつたんだと思つています。そうしなければ、私は、どこまでいっても、自分の心を見るといふことはなかつたです。自分を苦しむところに立たせて…。

ああ、本当に苦しかつた。欲まみれの私は、自分を自分で苦しめてきたんです。皆さん、本当に欲というものは、怖いですよ。

自分の中が狂っていることを、全く自覚しないうちに、敏感になることは、とても苦しいことです。私は、学びに集つたときに、そう教えられたはずなんです。でも、私は、そのことをいい加減にして、ただ、知りたい、知りたい、欲の思いを膨らませていった結果、自分自身、苦しい目に遭つてきました。昼も夜もなく、ただ私は、私自身に踊らされていました。

それも自分自身に踊らされていたということを、知るようになったのは、本当にまだ最近のことです。

苦しい中にあるときは、私は、自分から逃げよう、逃げようとして、余計に暗い、暗い中に、自分を落とし込めていったのです。

それが、自分にとつても冷たいことだつたなんて、とても思えなかつた。

自分を自分で苦しめておきながら、それをどうにかしてくれ、助けてくれ、もういい、もういいと、すべてシャットアウトしてきた自分の心の冷たさ、本当にすごいエネルギーを蓄えてきました。

そうやって、私は、いつも自分を自分で苦しめてきたんですね。
今世、私は、そのことを少しだけ感じさせていただきました。

***さん、ご主人に対して、今、どう思っていますか。

はい、主人には、大変迷惑をかけました。苦しいとき、私は、大変主人に迷惑をかけました。あの人がいたからこそ、今の私があると、私は、思っています。思っていますが、こうやって、少し、静かに自分を語り始めたとき、私は、ああやはり、主人に対しての反省というか、主人に対しての思いを、あまり見てこなかったなあと感じています。

苦しいときは、主人に助けや救いを求めて、私は、今、静かな自分であるときは、心の中から、主人に対する不満とか色々な思いが飛び出てきます。

ああでも、こうやって、この人と夫婦になつて、今までやってきました。
私達も、互いが互いを見る教材として、これからもともに行きたい、そんな思いが出てき

ます。肉は愚かです。主人に対して、ごめんね、ありがとう、まだまだ素直に言えないけれど、やっぱり、そう言える私になりたい、そう言えたら、もっと幸せな自分を感じられるだろうなあ、今、そう思っています。

一〇八、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。学びに繋がったことを喜んでいきます。

私は、自分の中をおざなりにしてきました。自分を置いてきぼりにしてきた自分を感じています。今、この学びに繋がって、自分の中を見ることが、どれだけのおもしろさなのかを感じています。お母さんを思って、私は、なるべく、お母さんを思って、時間を過ごそうと思います。色々日々の出来事で忙しいですけど、なるべく、自分の時間を作って、お母さんを思ってみます。せっかく、このように自分に用意してきたチャンスを、私も精一杯自分なりに、使ってみようと思っています。

異語。

***さん、ご主人の様子を見られて、あなた自身どのように感じていますか。

はい、他力信仰の恐ろしさを身にしみて感じています。ひとたび、心を他力に向け、自分のエネルギーをそちらのほうにどんどん使っていく恐ろしさを、私は、今、学ばせていただいています。

肉と意識の違いをまざまざと感じています。主人も、おそらく、この学びを一生懸命にしようとしています。でも、なかなか、なかなか進まない。その意識のすごさを、私自身感じさせていただいています。

決して他人事ひとごとではないと、私は、思っています。私も、過去において、色々なものに、心を向けてきたからです。

それを、主人を通して見させていただく今世でございます。

人間の欲、無知と欲とエゴに固まった意識の世界を、転回していくのは、とても難しい、本当に難しいことだと、日々の生活の中で、感じています。

色々な意味で、この主人と結婚してよかった、正直、そう思います。

一〇九、***さん、念力パワーについて、語ってみてください。

私は、***です。己の偉い心に成り果てた自分の意識の世界を、念力パワーを求めてきた心の世界を、身を以って感じ、本当に肉というものは、ただの操り人形だということを、認めざるを得ません。

中の命令に従って、肉は動いていく。それを、私自身は、体験してきました。原点を忘れた私の心の世界です。

なぜ、母から生まれてきたのか、なぜ、この肉体をいただいたのか、何度も自分に問いました。あまりにも苦しかったからです。なぜ、私は、生まれてきたのか、なぜ、母は、私に肉体をくれたのか、己の偉い心で問いました。

苦しみの淵に沈んでいた自分の心です。本当は、私は私に優しくしたかった。優しく、どこまでも優しく、自分自身を受け入れたかった。その思いが、母に届いて、私に肉体をくれたのですね。

念力パワーでガチガチのときは、そういうことすら、全く、全く、思いもありませんでした。周りが冷たい仕打ちをする。私は、いつも、責任転嫁の中で、苦しみ続けてきました。己

偉い心の中では、本当の優しさとか、温もりだとか、そういうものは、全く響いてこない意識の世界を、はつきりと自分の中に感じていきます。

異語。

***さん、お母さんの温もりしかないことを、心でしっかりと知っていただくさい。念力パワーなど必要ありません。お母さんの温もりを心に感じられるあなたであるからです。お母さんの温もりを蹴散らして、念力パワーでは幸せにはなりません。本当の喜びは分かりません。

もう十二分に知識では、分かっておられると思います。あとは、いつ、それを自分の中で、そうだと思い、素直にそのほうへ、心に向けていかれるかだけです。素直さ、一番大切なものです。素直ということが、どれだけ大切なことなのか、苦しい中でも、ひたすらに母を思う瞑想です。

ブラックのエネルギーに引つ張られながらも、いいえ、そうではない、そのエネルギーと決別する思いは、本当の優しさ、本当の温もりを、心で感じなければ分らないでしょう。

一一〇、****さん、ともに心を向けてみましょう。

私は、****でございます。心の中に溜め込んできたエネルギーが、私の肉体細胞を通して、教えてくれています。今、私は、心を、田池留吉に、お母さんに向けさせていただいています。心を語りなさい、あなたの心を語りなさい、そのような促しを受けています。お母さん、お母さん、申し訳ございませんでした。心を田池留吉に、お母さんに向けるように、私は、今の肉体をいただき、環境を選び、すべてを整えてきました。この心を見なさいよ、そうやって、あなたに迎えられる状態。ああでも、私は、自分の大きな、大きなエネルギーに、今世も、そのエネルギーに引っ張られる状態で、長く、長く、今まできました。

私の肉体細胞を、今思っています。どれだけ私のこの中のエネルギーがすさまじかったのか、私は、その思いを感じています。今はなぜかしら、とても嬉しいです。間違ってきたんだなあ、本当に間違ってきたんだああって、心に響いてきます。

異語。

田池留吉でございます。そうですよ、あなたは、いつも、いつも愛されていました。肉体細胞に思いを向けていってください。気分がすぐれないときも、どうぞ、ただただ、本当の自分、優しい自分に思いを向けていってください。どんなときも、ありがとうの思いを忘れずにいてください。お母さんを思ってください。優しい、優しい、あなたを感じていってください。心の中に、蓄えたエネルギーは、すさまじいものがあります。ああでも、それを、ひとつ、ひとつ、そう、ありがとう、ありがとうって受け入れていってください。あなたにはその時間が必要です。身体を休めて、心静かにその時間を持つてください。

すべてにありがとうございます、すっと嬉しい思いを感じ、また、目を閉じて、ふっと自分を思う、嬉しいですね、嬉しいですね、今、感じている心があなたの心ですよ。

タイケトメキチ、アルバート、心を向けなさい。しっかりと、しっかりと心を向けるんですよ。他力の思いではなくて、嬉しい、ありがとう、喜びです、お母さん、ありがとうございます、そうやって、少しずつ、少しずつ、素直な思いを思い出して、心を向けていってください。

一一一、***さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、この学びにパワーを求めてきた者でございます。パワーがすべてだと私は思ってきました。パワーこそ素晴らしい、私を素晴らしい私にしてくれる、そうやって、私は、ずっと、ずっときた者でございます。

今もその心がしっかりと、この中にあります。パワーにひれ伏す、パワーを求める、パワーを身につけるやつは素晴らしい、そのように、私の中から言ってきました。

心の中を見るということを、私はしておりません。ただパワーを求めて、求めて、生きてきました。だから、ここにその何かを感じるんです。パワーを感じます。私にそのパワーを教えてください。

異語。

はい、***さん、お母さんをどのように思っていますか。

母親なんて、私には要らない存在でした。母親の温もりなんか私には要らなかった。ただパワーが欲しかった。パワーをくれる母親はどこにもいなかった。お母さん、あなたの中から私は生まれてきたのに、あなたは、私にパワーを与えてくれなかった。そのように私は、あな

たを恨んで憎んできました。見下げてきました。見下げ続けてきました。母親は、私には必要ない。私は、パワーが要る。私の素晴らしい力を引き出してくれるものなら、何だって、私は心を向けてやる。私は、そうやって、ずっと、ずっと、存在してきた者でございます。

異語。

****さん、今、あなたの思いを語っていただきました。あなたの波動を自分の心で感じられるようになってください。強烈なエネルギーを発しています。そのエネルギーがこの宇宙に流れています。そのエネルギーはブラックでございます。ブラックはブラックを呼びます。そして、あなたは、自分自身を地獄に突き落とすとしていく、その過程をあなた自身、これからしっかりと感じていってください。

一一二、****さん、どうぞ、あなたの思いを語ってみてください。

どうして、パワーを求めることがそんな間違いなのか、私には分かりません。パワー、そ

言葉で言えば、パワーですけれど、私は、ただ安らぎが欲しかったです。温もりが欲しかったです。そのために、そういうパワーというものを、自分の中から欲しているのでしょうか。しかし、温もりも安らぎもパワーに繋がっていることが、私は、まだ理解していません。

だから、***さん、あなたは、自分の心を見てくださいと伝えているんですよ。あなたの心の中を、ずうつと覗いてみてください。安らぎが欲しかった、温もりが欲しかった、なぜなんでしょう。

底なし沼のような寂しさがあなたの中に広がっているのではありませんか。どうぞ、そのことを、日々の中で、あなた自身気付いていってください。人と語り合うとき、また、あなたが何か物を求めるとき、そして、一番分かりやすいのは、お母さんに使ってきた心を、ずっと書き出して見たときに、その奥に、安らぎや温もりを求めるその奥に、寂しい心があることに気付かれると思います。しかし、これは、あなたは自身が、自分の心を見るところを通して、自分の心で気付いていかなければなりません。それがこの学びです。自分の心で気付く、そうしなければ、いつまで経っても、寂しい中から抜け出すことはできません。

一一三、****さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、私は、****でございます。お母さん、お母さん、私は、とても己が偉かったです。あなたの肉を見てまいりました。あなたにすごいエネルギーをぶつけてきました。私の心でございました。

あなたから返ってくるものは、私の心でございます。それを私は、いつも、いつも、それ以上、倍にも三倍にもあなたに返していました。これは、私の周りの人すべてに、です。己が一番そびえ立っていたからです。

自分の心の苦しさを、すべて周りにぶつけてきました。

****さん、田池留吉に心に向けてみてください。

異語。

田池留吉、田池留吉をどれだけ、心で憎んできたか。恨んできたか。お前の言う通りにしても、私は幸せを感じられなかった。むしろ、私の心の中に苦しみが広がっていった。この学び

は嘘っぱちだ。そのような思いをずっと持つてきました。持ち続けてきました。でも私は、学びを離せなかった。どれだけ、田池留吉に、この思いを投げつけてきたことか。すべて、すべて、私でございました。

私の中から、このすさまじいエネルギーを流している、そのあなたの心を見てくださいと、あなたは伝えてくれていたんですね。

心が本当にお粗末で貧しくて、どうしようもない自分でございました。

今世、そのことに少しでも、気付けたからよかったです。残りの肉の時間、田池留吉、あなたを思つて、過ごします。どれだけ心が歪み、屈折して腐り切つてきた私でも、あなたを思つて生活をしてみます。

一一四、****さん、どうぞ、心を語つてみてください。

****と言います。心を語るとは、どういうことなのかあと、私は、思つてきました。自分の思いを、うまく言葉で表すことができなかつた私、思いをずっと、ずっと飲み込んできました。

私の思いなど、理解してもらえない、そうやって私は、言葉を飲み込んできたように思います。言葉を飲み込み、心を抑え込む、このエネルギーがとても、とても、強いのが感じます。これが、私が私に冷たいということなのでしょうか。

言葉を吐き出しても、どうせ分かってもらえない。周りに変な誤解や、トラブルが生じてしまう、そうやって、私は、周りの人達を恐れてきたようにも思います。

小さくかじかんできた自分の心を、もっと広げていきたい。今、そのように思っています。

***さん、そうですね。どれだけ言葉を飲み込み、心を抑えても、あなたの思いは、波動として流れていきます。そういうことを学んでいく学びなんですよ、この学びは。

道徳ではありません。そうですね、道徳ではないんです。だから、あなたは、あなたの思いを素直に出していただくさい。

出し方は、色々とあります。とりあえずは、何かに書き留める、そう、パソコンのキーを打つ、異語で吐き出す、そうやって、あなたは、あなたの中と、対話する時間を持つていただくさい。

一一五、***さん、あなたは、今どこに心を向けていますか。

私は、***です。私の日々の生活は、とても忙しいです。でも、自分で時間を作って、瞑想をしようと思っっています。

でも、身体が疲れたり、色々と気が散ったりして、私は、瞑想に集中できない、そんなときがよくあります。

自分のエネルギーは、セミナー会場で感じさせていただきました。間違ってきたことを、私は、自分の中で、感じてきたつもりです。

ああでも、こうやって語るとき、私の感じてきたものは、やはり浅いものだったなあって、今、思います。

心をどこに向けているのか、ストレートに聞かれたとき、タイケトメキチ、アルバートって答えたかったけれど、私の心の向け先は、欲を伴ったタイケトメキチ、アルバートだった、そのように、今、感じています。

異語。

***さん、そうやって、躓きながらもいいんです。しっかりと心を見て、心の向け

先を確認していつてください。私は、もうやってきた、できている、そんな思いなど必要ありません。

たとえば、あなたの娘さんに、どのような思いを向けておられますか。

あなたの娘さんから、どのような思いが返ってきますか。

あなたも、そういうことを、自分の中で感じられると思います。

そうやって、肉としてではなく、意識、ともにひとつだという思いで、娘さんを見て、そして、周りの人達を見ていつてください。

一一六、***さん、心を語ってみてください。

他力の思いが、とても強いことを感じます。瞑想をしていますが、反省をしても、何か私の周りに他力のエネルギーが、ピッタリ張り付いているの感じます。私は、その中に、すっばりと納まっているような気がします。そんな気がしてなりません。

***さん、そうですね。その中から、早く出てきてください。

お母さんを思い瞑想を続け、焦らずに、一步一步進んでいってください。

焦る必要はありません。あなたはあなたの歩み方があります。そのことを忘れないでください。

心の中のエネルギーを感じます。あなたは、あなたの中の苦しさを感じませんか。私は、あなたの中の苦しさを感じます。どうぞ、今世の時間、その自分達を解き放つことに、取り組んでいってください。

一一七、***さん、***さん、あなた達のお父さんやお母さんは、どのような生活をなさっているでしょうか。どうぞ、それを含めて、あなた方の思いを語ってみてください。

はい、とても、とても、苦しい、苦しい中にありました。ふたりは顔を合わせれば、喧嘩、喧嘩をしていた毎日でした。何で、そんなに怒るのか、何でそんなにイライラするのか、私達は、いつも、ヒヤヒヤ、ヒヤヒヤしていました。お父さん、お母さん、仲良くしてください。私達は、いつも、そうやって、お父さんやお母さんを見ていました。

そして、お父さんやお母さんは、この学びに繋がったんですね。

以前よりは、お互いに少しだけ、喧嘩をする日が少なくなったような気がします。私達にも、何か優しいお父さんやお母さん、というよりも、優しい何かを向けられているような気がします。でも、お母さんは、何かあるとき、すごい顔をするんです。それが、やはり私達は、ヒヤヒヤして見ているような、そんな感じですよ。

異語。

****さん、****さん、今、あなた方おふたりの子供さんの思いを聞かせていただきました。どうでしょう。学びに繋がって、変わられたでしょうか。

はい、私達ふたりは、よく喧嘩をしていました。喧嘩のものはお金です。そして、ああそう、お金がやっぱり中心です。色々なことがあるけれど、突き詰めていけば、やっぱりお金だったんです。

イライラして、自分達のエネルギーを互いにぶつけ合ってきました。

私、****は、心が敏感です。主人の仕事、顔色、言葉遣い、何気なくても、フツとそこから、すさまじいエネルギーを自分の中から感じるんです。

それを、前は、どうもしようもありませんでした。でも、今、少し、ブレーキが効いているような気がします。

主人は、どちらかというところ、自分のエネルギーを抑え込むほうだと思います。

異語。

夫婦仲良く、親子仲良くというのは、この学びをしていなければ、成り立っていないことを、あなた方は、分かっておられると思います。

どうぞ、それぞれがそれぞれの心を見ていってください。夫婦、親子といっても、互いが互いを見る教材です。まずは、お父さん、お母さんからでしょうね。そして、子供さんは、あなた方の姿を、ずっと見ておられます。子供だから…、そういうことは、意識の世界では通用しません。

どうぞ、家族ひとつになって、本当に、今世、家族となつてよかつたなあつて言えるような、そんな時間を積み重ねていってください。

一一八、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、****でございます。苦しかった心を私の中で見てまいりました。自分の中で見てきたときに、私は、これほど自分こそびえ立っている、本当に己が偉いということを知りました。

まさしくその通りです。私の苦しみは、私が作ったものでした。すべてのものに逆らってきました。何もかもに逆らってきました。自分が一番偉かったです。今は、そう自分の中で、そのように感じられます。

異語。

お身体の調子は、どうでしょうか。

私の身体は、不思議なくらい回復しました。自分でも驚いています。肉は、驚いています。でも、私に必要な時間だったんですね。中は、必死な思いでいたのに、この肉はほんくらでした。はい、中は必死だと、今、感じています。

私は、この自分の中の意識達と、ともに進んでいくことを約束してきたから、今の肉体を、お母さんからいただいたんですね。意識達の代表が、今の肉でした。肉を粗末にしてみました。肉の自分を自分だと思つて、本当にいい加減に生きてまいりました。

肉の時間、大切にしたいと思えます。私が、私を繋いだように、これからも、苦しい中を繋いでいこうと、今、思っています。

一一九、***さん、心を語つてみてください。

私は、***です。田池留吉、殺してやる。田池留吉、くそつたれ。この思いを、まだ私は…。まだまだ吐き出していない私を感じる。日々の中で、そのエネルギーを感じます。まだまだその思いが、愛しいなんて思えない。何で、何で、何でこうなるんだ、そんな思いが広がっていくのが分かります。

異語。

****さん、あなたの中に、自分は正しい、自分は正しい、その思いが、しっかりと残っています。何をもつて正しいと言えるのか。すべてが肉ではないでしょうか。あなたが、自分の中を覗いたとき、私は正しいという思いが出てきたら、その思いを、ずうつとずうつと掘り下げて見てください。

正しいって、そう言っている間は、あなたの中に伝わってくるのは、苦しきだけでございます。何が正しいのか、どういうことが正しいのか、あなた自身に、真剣に尋ねてみてください。

一一〇、****さん、お母さんのことを、どのように思っていますか。

はい、私は、****です。お母さん、お母さん、私は、お母さんから生まれてきてよかったですよ。

今の肉体を、お母さんからいただいたいて、ありがとうって、私は、いつもあなたに、伝えています。お母さん、その私の思いを信じていってください。私の肉体は、このような肉体ですけど、私も、自分の中に、たくさんの思いを抱えて存在しています。私は私で、このような肉体をい

ただくことを、予定してきた意識でございます。その中で、私は、周りの人達から、色々なものを感じ、すべてが私の心の表れだと思っています。

お母さん、自分を暗く、暗く、落とし込めないでください。

私は、あなたの明るい笑顔、優しい笑顔、それがとても大好きです。それ以外は、あなたには似合わないと思います。

私は、****でございます。****の思いを、私は、何度も聞かされました。喜んでいる波動を感じさせていただきました。でも私の中で、その時はそれで喜ぶ思いがあるけれど、時間が経つにつれて、私の中から出てくる思いで、その思いを消し去っていくのを感じ、とても苦しい思いを感じています。私は、とても暗い、暗いんですね。形を見ている私の心は暗い。今、****の思いを聞いて、そう思いました。

私は、****。

異語。

これからの転生に、私は、心を繋いでまいります。タイケトメキチ、アルバート。アルバート、アルバート。

二五〇年後に必ず出会うことを、私の心は知っています。****、今世は、このような環境に肉体をいただきました。しかし、私は、アルバートあなたとの出会いの中で、この心の中を、爆発させてまいります。ありがとうございます。

一一二一、****さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、****でございます。私の中に信じる神があることを感じています。神を信じて私はきました。信じてまいりました。

ここでいう神とは、あなた方が思ってきた神とは違います、その意味が、私にはよく分かりませんでした。私の信じてきた神は、唯一絶対なるものだと、私は、そのように信じてきた者でございます。

この神の実態を、自分の心で知りたい、今、私は、そのように思います。

***さん、そうですね。あなたの中にある神の実態は、一言で言えば、ブラックでございます。それは、あなた自身、肉から意識への転回がなされていないからです。

しかし、今、このようなことをあなたに申し上げても、全く理解できないと思います。ですから、どうぞ、お母さんの反省から始めてください。

お母さんに使ってきた心を、思い出してください。心を思い出すのです。

どんな心をお母さんに向けてきたか。本当にありのままに、自分を誤魔化さずに、飾らずにありのままを思い出してください。

そうした時、おそらく、あなたは、その作業の中で、自分のエネルギーを心に感じていかれると思います。心の中の神を信じてきたあなた、ブラックのエネルギーが、中から、あなたに訴えてくると思います。

どうぞ、その時、臆せずに、しっかりと、お母さんを思ってください。

お母さんは、あなたに対して、何も求めはしなかった。何も求めはしなかった。ただ、あなたがそのすさまじいエネルギーを蓄えてきたことを、知ってほしかった、そんな存在なのです。そのことを、どうぞ、自分の心で感じられるようになるまで、お母さんの反省をなさってください。

一二三、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***と言います。私も、学びに集ってきた動機が違っていることを感じています。私の肉は、まだそういうものをはつきりと自覚しておりませんが、私の中は、パワーを求めていることを、伝えてくるのです。パワーが欲しい、パワーが欲しい。パワーがあれば、前は幸せになれる。パワーを求めろ、パワーを求めろ、そのような思いが、心に上がってきます。ですが、肉の私は、まだ何も分かっておりません。

異語。

***さんに限らず、学びに集う動機が違っている人が、ほとんどではないでしょうか。中でも、パワーを求めてやってくる人達が多いです。

***さん、あなたも、そのお一人だと思います。

私は、ここで、お伝えします。

お母さんの温もりを心を感じない前に、心が敏感になってきたとき、大変です。パワーを

求める心を、しっかりと自分の中で見ていってください。

そういうことをおざなりしていった結果は、みんな自分に返ってきます。

なぜ、自分はパワーを求める心が強いのか、自分の求めているパワーとはどういうものだろうか、絶えず、そのようなことを、自分に問いかけながら、学びを進めていただきたいと思えます。

大きな欲の塊を感じていかれるだろうと思います。すべては欲です。欲以外はありません。

みんな、苦しい中を生まれてきたのです。それをどの時点で把握できるかによって、道は大きく分かれてまいります。

心を見る過程で、過去と同じ徹を踏まない、その思いに行き着くことができればと思っております。

一一三三、 ****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。苦しい、苦しい中で私は存在しています。右を向いても左を見て、苦しい者ばかりです。身体を病んでいる人達は、心も本当に病んでいます。私は、

そのことを感じます。私も、心が敏感だと思えます。患者さんと接していて、その人達は、確かに身体の調子がよくない人達ですが、その人達の心からも、本当に苦しい、苦しいって伝わってくるような気がします。

私は、なぜ今の職業を選んできたのか、自分の中でようやく、そのことが領けるような私でございます。

心を病んでいる人達があまりにも多い。身体も病み、心も病み、すべてが病んでいる、そのような人達で溢れている、その中で、私は、ほとんどの時間を費やしています。

異語。

***さん、みんな、みんな苦しい中にあります。苦しいことすら分からない、ましてや、なぜ苦しいのか、どうしてこんなに苦しいのかということなんて、分からない人は、たくさんいます。

その中で、あなたは、この学びに繋がりました。どうぞ、日々の中で、ほんの少しでもいいです。瞑想をする時間を作ってください。お母さんを思い、あなた自身を思う、そんな時間を作ってください。

瞑想でしか真実は分かりません。そのことを、一步一步自分の心で、知っていつてください。

一二四、***さん、どうでしょうか、己偉い心を、どの程度見てこられましたか。

私は、***でございます。学んできていると思ってきた私の思い、本当に甘かったことを、痛切に感じてきました。田池留吉、お母さん、私は、本当に何にも分かっていなかったことを感じます。

自分の中で、他力のエネギーを、どれだけ詰め込んできたのか、今世もまた、その上塗りをたくさんしてまいりました。でも、私は、このように学びに繋がり、自分の心を振り返る時間をいただいています。

肉の生活は厳しいものがあります。どちらを向いても、闇の自分のエネルギーが返ってくる、そんな中で、私は心を見る、この今世の時間を選んでまいりました。

真実に目覚める、大げさな看板を打ち立てて、私は、意気揚々とこの学びをしていこうと思ってきました。でも、自分の足元をすっかり見失って、本当に上ばかりを見ていた自分を思います。

お母さんを思ってみます。もっと真摯な思いで、お母さんを思ってみます。

異語。

***さん、ご主人の思いを聞かれて、あなたは、どのように思いますか。

私の学びに集ってきた動機、学んできこうとした動機、その動機が間違ってきたことは、以前に私の中で感じていました。私自身だったんです。私のために、学びをやっていかなければなりませんでした。そのことを私は忘れて、肉の私を優先させてまいりました。申し訳ございません。

たくさんの教材が、私の周りにあります。笑顔に救われ、癒されるときもあります。やはり、私の心の中から、すさまじいエネルギーを引き出してくれる教材です。そう、どちらを向いても、私も苦しい、苦しい、そのような自分がまだたくさんあります。

でも、私達も、家族ひとつになって、自分達の心を見てまいります。

今世、何かの縁があつて、このような家族を私は持たせていただきました。その中で、私も本当の喜び、真実に向けて、心を見てまいります。

異語。

はい、おふたりとも、心を、タイケトメキチ、アルバートに向けていってください。

異語。

はい、私達には、次の転生が待っています。心を繋いでいくように、自分達の中から促しを受けています。それが、今、とても嬉しいです。心を繋いでください。必ず繋いでください。二五〇年後、アルバートに出会うまで、あなた方の転生の中で、心を繋いでいってください。そのように伝わってまいります。今、とても嬉しいです。ありがとうございます。

一二五、***さん、チャネラーとしてのあなたの思いを語ってください。

はい、私は、***です。はい、私は、何も分かっておりませんでした。今、チャネラ

ーとしての、と言われました。本当に私は、何も分かっていなかった。皆さんに申し訳ないと思っています。

私は、皆さんに間違ってきたものを流してきた。真つ黒なものを流してきた、今、そのよ
うな反省をしております。

私の中に、色々なものを感じ、そして、それを言葉にしてみました。でも私が、何も分かっていなかったというのは、そういうことは、誰でもできるんです。それを私は、誇つてきました。私の根本は肉でございました。

肉を根本として、私は、そうすることが素晴らしいとして誇つてきた者でございます。

お母さん、私は何も分かっていなかったんです。心に、感じるものがあるから、それを言葉に発してしまう。そうやって、周りの人達に、色々な思いを出させてしまいました。

私を奉る心、崇める心、継る心、頼る心、そういうエネルギーを、私は、また自分を誇るエネルギーとして、さらに大きく、大きくしていききました。そこには、本当に間違った意識の世界を広げていった、私は、それを感じています。

異語。

***さん、心の中の温もりを信じていってください。私は、今あなたにそのメッセージを送ります。自分の中を見つめていくこと、自分の中の温もりや優しさを信じていくこと、そのために、あなたは心が敏感な肉を選んできました。間違つて使つてきたのはあなただけではありません。間違いに気付かれたなら、どうぞ、心を、しっかりとお母さんに、そしてタイケトメキチに向けていくこと、ただそれだけでございます。肉のあなたは、それをするために生まれてきました。

一二六、***さん、お身体はお元気そうですが、あなたは、あなたの心を見ておられますか。

異語。

はい、私は、***です。肉の命の時間をいただきました。心を見るために、私に私がそうしてくれたんですね。今、私は、そのように思っております。

はい、でも、私は、恐怖の思いと裏表です。肉の時間をいただいた、その本当の意味を心で感じる一方で、私は、私の身体にとっても恐怖を感じています。

異語。

***さん、心の中で、タイケトメキチを思えますか。

はい、私は、心の中にタイケトメキチを呼ぶとき、自分の苦しい思いを感じるときがございます。自分では向けよう向けようとしています、向く心に、とても苦しい思いを感じるのです。

ああ、これが、私が培ってきた他力のエネルギーなんですね。

私は、キリストを神としてまいりました。清く正しく美しく、私の目指すところでございました。キリストが、私の神、私は、そのように思っております。

ああ、これが、私がタイケトメキチに向けようとするのを、阻止する私自身だったんですね。

異語。

はい、***さん、そのところを、もう少し、自分の中で、しっかりと確認して、そして、

少しでも、タイケトメキチのほうに心を向けるようにできれば、その時に、あなたが、培ってきた宇宙に対するエネルギーを心で感じられることだと思います。

一二七、***さん、あなたのエネルギーを自分自身で、感じてこられましたか。

私は、***でございます。すごいエネルギーを溜め込んでいると、私は、以前に言われたことがございました。全くその通りだと思ってきました。でも、私は、やはり、自分のこの形を崩すのが、とても恐ろしい。自分の中に溜め込んできたエネルギーを、解き放していく優しさを、私は、まだまだ感じておりません。ああ、その分、私の中に苦しみが増してきます。苦しい、苦しいって、私に訴えてきているのを感じます。

異語。

***さん、肉はどの人も愚かだと、私は申ししてきました。肉のあなたは愚かなんです。どうぞ、心を静かに、そして、真剣に見ていってください。

形を崩すといっても、あなたの中で、しっかりとあなた自身を見つめられたなら、自然と形は崩れてまいります。

お母さんの温もりを心を感じていけば、あなたが守ろうとしてきたものは、すべて、とてもちつぽけなものだと感じます。どうぞ、お母さんの温もりを心を感じていってください。

それには、そう、あなた自身があなたの心を見て、瞑想をして、そんな時間に、あなたの肉の時間を精一杯、そんな時間に使ってってください。

もう時間は残されておりません。何よりも、何よりも、あなたの心を大切になさってください。

一一二八、****さん、心を見てください。

私は****です。狂いそうなくらい真つ黒な自分を抱えて生まれてきた。このエネルギーをどうにかしてくれ、何とかしてくれ、私は、狂ってしまう、そのような不安と恐怖の中間、ずつとずつといました。

お母さん、助けてください、私は、狂ってしまう。私は、どうなっていくんでしょうか。そ

んな思いのまま、私は、瞑想を続けてきたことを感じます。

私は、私に冷たかったです。お母さん、私は、私に冷たかったです。

お母さんは、もうすでに、私に教えてくれていたんですね。あなたの中の温もりを、どうぞ、感じてくださいと、あなたは、教えてくれました。

異語。

***さん、ゆつくりと、ゆつくりと、心を見ていってください。ゆつくりでいいですよ。その日の気分によって、ゆつくりでいいんです。

すうっと肩の力を抜いて、そう、瞑想をしましょうとか、そういうことではなくて、ただ目を閉じて、お母さんを思い、田池留吉の肉を思い浮かべてください。田池留吉の肉です。他力的にその肉に縋る思いではなくて、ただ田池留吉、ああ先生って思うんです。

田池先生は、あなたもご存知のように、普通の老人です。でも、あなたが田池先生って思うとき、どうでしょう。肉を思い浮かべているんだけど、何かふうつと優しいものが伝わってくるはずですよ。

まずは、それを信じていってください。自分の心に、感じられる優しさ、微かでも、感じ

られたなら、それを信じて喜んでいってください。そして、苦しい思いが、あなたの上から来たとき、その思いをふうつと、そちらのほうに向けていくんです。ふうつと向けるだけでいいですよ。その実践をあなたの中でやってみてください。

一二九、***さん、心を語ってください。

私の心の中に、いっぱい、いっぱい詰まっています。吐き出しても、吐き出しても、次から次へと出てくるこの思い、ああお母さんの反省が進んでいないことを感じます。

でも、私もひとつの家庭を持ちました。子供も授かりました。その家族の中で、私は、心を見ることを、細々ながらやっています。お母さんに、どれだけの思いを広げてきたか、私は、妻となり母となつて、やはりその見方が変わってきたと思います。

お母さん、私は、お母さんの思いを素直に受けることができませんでした。本当に、今、そう思います。心の中から、どんどんどんどん思いが出てくるけれども、私は、その思いをまだ自分の中で、優しく抱きとめていく、抱きしめていく、自分を解き放していくまでには至っていないことを感じます。

タイケトメキチ、申し訳ございません。心が敏感な私を、いつまでも待つてくれているあなたに対して申し訳ない、そう思います。

***さん、心をしっかりとタイケトメキチに向けていつてくください。日々の時間は、あつという間に過ぎていくと思いますが、そんなときでも、どうぞ、自分を見つめる、静かな時間を持つようによしてください。

あなたの心は、泣き叫んでいるのを感じます。それは、あなた自身しか受け止めることができない。なぜならば、それはあなただからです。あなたがあなたを受け止める、それしか、あなたに残された道はございません。

一三〇、***さん、心を語ってください。

私は、***でございます。田池先生のお膝元で、私は、古くから学ばせていただいた者でございます。しかし、私の意識は、遅々として進んでおりません。今もあの当時と同じところで、足踏み状態でございます。私は、そのことを感じます。

他力信仰とこの学びは全く違う、頭では分かっておりますが、私の中では、他力信仰の延長だととらえてきたように感じています。

肉の喜びと幸せを、学びをやっていたけば、私の中に感じられる、その思いが、とても強いです。

異語。

***さん、お母さんの反省を、一から始めてください。あなた自身が語られたように、あなたの意識の世界は、足踏み状態です。この学びは、進化しています。しかし、あなたの意識の世界は、何かひとところに留まって、淀んでいるような感じがします。

あなた自身も、そのことを心に感じておられると思いますが、どうぞ、お母さんの反省から始めてください。

年数は長いですけど、学びの流れ、今の流れに程遠いところにあることを、私は、あなたにお伝えします。

このことを聞いて、さて、あなたは、どのような思いを、心に広げられるでしょうか。そこから始められてもいいかと思えます。どうぞ、あなたの中から出てくる思いを、しっかりと自分で見つめてください。

一三二、***さん、忙しいですか。瞑想をしていますか。

私は、***です。はい、毎日が忙しいです。瞑想をしても、自分の心に響いてくるものは、雑念ばかりです。そんな毎日を過ごしています。今、私は、自分の心を語りなさいと言われて、いるような気がするけれど、私は、自分の思いを、しっかりと見てこなかった、そう思います。この学びに集って、私の心を感じられることがありました。そのことは、私が、自分の家に帰って、日常生活に戻っていくと、もうどこか遠くの世界のような感じがしていました。あの時の思いを、自分の中で思い出そうとしても、日々の時間の中で紛れていく自分を、どうすることもできませんでした。

異語。

***さん、これをきっかけに、どうぞ、もう一度、お母さんの反省から始めていってください。あなたの心は、色々なものを感じているはずですよ。お母さんの反省を通して、自分

を振り返ってください。そして、そう、雑念が出てきてもいいんです。目を閉じる時間を持つてください。

目を開けていれば、あなたの心は、外に、外に向いていきます。当然です。あなた自身、肉形の世界にどっふりだからです。そうではなくて、目を閉じてという時間を持つてください。目を閉じる時間を持つ、このことは、とても大切なことです。

耳から音が聞こえてくるでしょう。でも、目を閉じて、じっと、自分の心を振り返る、その時間を持つてください。

一三三、***さん、あなたは、自分の心を見てこられましたか。

はい、私は****です。自分なりに見てきたと思います。ああでも、私は、自分が正しいというところから、心を見てきたって、今、感じます。

特別にそういう意識がなくても、根本は自分は正しい、そう根本にその思いがあったことを、今、感じます。

ああだから、私の心の中の苦しみは、いつまで経っても残っているのかなあって、今、思

っています。

異語。

***さん、苦しい心を、全くなくすことなんてできません。なぜならば、私達は、今、肉を持っています。その肉を見て学ぶ時間、空間にいます。だから、苦しい心を全部なくそうなんて思わないでください。

ただ、あなたが語ったように、自分の正しさが根本にあつて、そこから、心を見ていつても、やはり、自分を正当化する思いによつて、その心の奥底にある自分の間違いに気付いていけない、そういうことはあると思います。

今、語ったことは、理屈ではないんです。それを分かつてほしいと思います。言葉でこの学びを理解することなんてできません。理屈ではないんです。ただ、あなたがあなたの心で感じることを、大切にしていけば、ああこういうことだったのか、それが心で自然と感じられます。言葉にとらわれないでください。もうあなたも、この学びについての知識は、充分おありだと思います。だから、どんどん瞑想をしていってください。ただし、どんどん瞑想をしていくといつても、欲をもつて瞑想をしていくのではありません。そのところを、きちんと自分の

心を見つめながらやってください。

あなたは、なぜ、瞑想をしようと思うのでしょうか。

瞑想をする基本は、喜びです。嬉しいなあ、ただ目を閉じて思うことが嬉しい、そういうあなたになっていってください。

一三三、***さん、心を語ってみてください。

はい、***でございます。心を、タイケトメキチ、アルバートに向けていったとき、私の心の中に、喜びと苦しみの両方が広がっているのが分かります。この苦しみを、私を感じている喜びで包んでいくことも分かります。今、私は、それを、日々の中で少しずつ、やっつけていこうとしています。ああ、セミナー会場で感じた喜び、もう一度、あのセミナー会場に行きたいなあ。今、そう思います。

異語。

****さん、アルバートに心を向けてみてください。

異語。

はい、アルバート、アルバート。はい。お母さん、お母さん、私は、間違ってきました。お母さん、お母さん、間違ってきました。私には、己がとても偉かったです。お母さんやお父さんの上に立っていました。ふたりとも私によくしてくれていました。肉のお母さんもお父さんも私によくしてくれました。そのことを私は、今、ありがとうございます。私は、自分がとても偉かったです。お母さん、お父さん、私は本当に、自分が偉かったです。

異語。

****さん、今、娘さんの思いを聞かれたと思いますが、あなたはこの学びに集えてよかったですか。

私は、****でございます。はい、とてもよかったです。苦しい私の心を、少し前に出

させていただきました。夫に使ってきた心、私の心の中を刺すような波動でございました。そんな波動を、すべての人に流してきたと思うと、私は、本当に申し訳なく思っています。知らなかったでは済まされなかった。今、そのように思います。

異語。

***さん、お身体はどうでしょうか。

はい、私の身体は、とても辛いときがございます。でも、この肉体細胞は、私が流してきた思いを受けてくれたと思うとき、とても申し訳なく思います。肉体細胞があつたから、私は自分の間違いに少しでも、今世、気付かせていただいた。そうやって、私は、この肉体細胞とともに学んでいきたいと思っています。

異語。

あなた方にとって、日本は遠いところかもしれませんが、どうぞ、心向けることをしていただく。心向けることについては、遠い、近いはございません。ただあなた方の心

で思えば、瞬時に通じる、それが意識の世界です。タイケトメキチ、アルバート、そのように思つて、日々の生活をしていつてください。

タイケトメキチ、アルバート、ともに、二五〇年後を待つてゐる意識。とても嬉しいです。この喜び、嬉しさを、あなた方の心にも、私は伝えたい。
二五〇年後、必ず出会いたい、あなた方でございます。

一三四、***さん、心を語つてみてください。

私は、***です。私は、感じている、できている。私は、これだけやってきた。その思いが非常に強いです。だつて、心で感じるんですもの。私が感じているものは素晴らしいでしょう、そのような思いが、私の中にあります。今、正直に自分の中をさらけ出してみて、あなた、私はすごいんだなあって感じます。すごい心を使つてきたんだなあって…。

でも、今、自分の心をすつと言えて、とても嬉しいです。

***さん、まずはあなたの他力の心を見ていってください。あなたが感じている向け先、そうあなたは心で感じていらっしやるかもしれません。でも、あなたの心の向け先、その先に、他力のエネルギーが、たくさん残っています。他力に向けてきたあなたの心を、どうぞ見ていってください。タイケトメキチ、アルバートと、他力のエネルギーは合いません。

そのことをあなたにお伝えしたいと思います。厳しいですけれども、これが、私からのメッセージでございます。どうぞ、他力の思い、他力のエネルギーを、もつともつと見ていってください。そして、お母さんを、ただただ素直に、お母さんを思ってください。

一三五、***さん、田池留吉の目を見て、あなたはどのような変わってきましたか。

私は、***です。田池留吉の目を見て、そう、私は、そのような反省をずっと続けてきました。田池留吉の目を見さえすれば、私の心は、どんどん変わる、そのような欲の思いを心に秘めながら、私は、そのような反省を続けてきました。間違ってきました。私の中にお母

さんの温もりを思い起こすこと、それを私は、優先してきませんでした。ただただこの***を表すこと、その思いを先に立てて、私は反省を続けてきた。そのように、今、感じています。

異語。

さん、あなたもチャネラーですよ。あなたのその思い、私に感じられます。私を認めよ、チャネラーを認めよ、そのような思いを感じます。ですが、私は、認めることはできません。

あなたの心の中から流れるエネルギーが、ブラックだからです。どうぞ、お母さんの温もりを、心に蘇らせてください。タイケトメキチもそのように待っていると思います。お母さんも、そのように待っていると思います。

***さん、どうぞ、このメッセージを、素直な思いで聞いてください。

一三六、***さん、心を語ってみてください。

はい、***です。すごい、すごいエネルギーを蓄えてきた私でした。本当にすごいエネルギーです。すべてに、すべてに、このエネルギーを流してきたことを、感じてきました。心からの懺悔がまだまだできません。でも、私は、今、少し、ほんの少しですけれど、自分の中から、お母さん、お母さん、間違ってきたよ、ごめんね、お母さん、間違ってきたよ、そんな思いがしています。それが、とても嬉しいです。

私は、一足飛びにこの学びをしようと思いました。とても欲の思いが強い私でした。そうじゃなかった。私の中で、一歩ずつ、一歩ずつ、歩みを進めていくこと、それが大切でした。この今、感じている思いを大切にしていきます。この思いを、しっかりと見ていきます。そして、少しでも、お母さんに向けて、私の思いを見ていこうと思います。ただただ、待っていていた存在、それが本当の私でございました。

異語。

はい、***さん、タイケトメキチ、アルバートを、素直に呼んでみてください。

はい、タイケトメキチ、アルバート、お母さん、タイケトメキチ、アルバート、ごめんなさい。ごめんなさい。ごめんなさい。ただただごめんなさい。ごめんなさいしか出てきません。素直ではありませんでした。素直ではありませんでした。己がそびえ立っておりました。タイケトメキチ、アルバート、申し訳ございません。

一三七、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。私も寂しい心を抱えています。ひざを抱えて縮こまっている自分の心を感じます。これだけ寂しい心を抱えてきたのか、私は、今、自分を語る時、そのように感じています。

寂しい心をどのようにすればいいか、分からなかった私でした。そのような過去をずっと生き抜いてきたと思います。心の寂しさは、何にも癒されなかった。そう何にも、です。色々なものを、私の心は求めてきたけれど、私の寂しい心は、どれだけ寂しいって叫んでも癒されなかった。私の寂しい心は、救われなかった。そう、つくづく、しみじみ感じています。

このように、心を語る時間を与えられていることが、今、とても嬉しく思います。お母さん、

間違つてきました。お母さん、お母さんの思いを忘れてきました。

異語。

***さん、寂しい心を癒し救っていくのは、紛れもなくあなた自身であることを、あなたは今世、知ったのです。

自分の中で、寂しい心と真正面から向き合ってください。今世こそは、自分の中で、寂しい心と向き合ってください。

寂しい心を抱えたままの自分なんて、本当の自分じゃない、それを、あなたは、感じていると思います。本当のあなたは、大きく、大きく、広がる宇宙なんですよ。宇宙といっても、あなた自身、まだよく分からないと思いますが、そんなあなたを、ほんの少しでも感じてきたら、本当に、寂しい、寂しいって言っていた自分が嘘のようになります。

お母さんに生んでもらったから、今、こうやって、自分自身の心を語ることができ、喜んでいってください。

その時間を自分に用意していることを感じ、それを喜び、そして、あなたもあなたを繋いでいく方向に、心に向けていってください。

一三八、****さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、****と言います。

はい、すさまじい思いを、心に広げてきた私自身のエネルギー、とてもとても、すごい、すごい、すごい、すごい。その中から、私は、なかなか抜け出すことはありませんでした。

こんな私をどのようにしていけばいいのか、心に響いてくるエネルギーはあるけれど、それをどのようにしていけばいいのか、私は、なかなか、そこから抜け出すことができない自分に、情けない思いやら、色々な思いを感じてきました。

ああ、でも、私は、今、自分が、いとおしいと少しずつ思えるような私がございます。

私は、真つ黒だからよかったですね。どうしようもなかったから、よかったですね。今、そう心に響いてきております。

今の私の肉体があるから、真つ黒な私を心ゆくまで感じられた今世が、とても、嬉しいです。心を落としてきた過去からの私が、喜んでいて、そう感じられます。

今は、ああ、私は、これでよかったですね、よかったですね、そう思える私があることが、と

でも幸せです。

一三九、***さん、あなたの心が固まっているのを感じられますか。

私は、***です。心が固まっている、そうなんですか。私は、固まっているんでしょうか。私は、それがよく分かりません。色々なことに出会い、色々な心を使ってきましたよ。苦勞してきました。そして、今、この学びに繋がっています。私自身は、学びに出会えたことを喜んでいるのですが、心が固まっていると言われて、正直申しまして、私は、驚いています。心が固まっているって、どういうことなんでしょうか。

異語。

はい、***さん、あなたは、あなたの他力のエネルギーをご存知でしょうか。他力のエネルギーにがんじがらめである、それを、私は、心が固まっていると、表現させていただきました。

他力に向けてきた思いを、しっかりとあなたの中で、振り返ってこられましたか。あなたは、おそらく、若い頃、非常にしっかりと生きていたと思います。自分の考えを持って、テキパキと行動に移されていたと思います。そのあなたを動かすエネルギー、そのエネルギーが、今もあなたの心の中に、しっかりとあります。年齢はいかれていますようですが、エネルギーは、そのままの状態です。あなたが、もともとは若ければ、そのエネルギーを充分に使って、あなたは、まだまだテキパキと、周りを支配されてきたと思います。そのエネルギーを、あなた自身見てこられたかどうか、そういうことです。あなたは、そのエネルギーは、素晴らしいものだと、いいものだと思っています。しかし、違います。その根本は、己偉し、高し、支配する思い、そのエネルギーなのです。そのエネルギーに、凝り固まっているあなたの心の中を、あなた自身、どれだけ感じてこられたか、と私は、尋ねています。

異語。

はい、そうですね。私は、もう大昔になりますが、そういうことでしたか。私は、そうです、やはり、自分は立派、テキパキ支配を振るってきたことを、誇りに思ってきた自分があります。今も、この心の中に残っているんですね。はい、その当時を、自分なりに振り返ってみます。

一四〇、***さん、幸せな子と書いて、さちこって呼ぶのですね。

その名の通り、あなたは幸せな時を刻まれてきましたか。

いいえ、とんでもありません。私の中は、とても暗くて、決して幸せだとは言えないと思います。肉の私は、それなりに幸せだと感じてきたけれど、私の中はそうではありませんでした。その私が、今、心を語るとき、ああそうだ、この心を語れる私は幸せだった、そのように感じます。幸せというものを履き違えてきた。今、そう感じています。

心を見る、自分の中を見る、自分と語り合う、それが幸せな自分と出会う第一歩だったんですね。今、そう思います。

私も、これからでも遅くはないでしょうか。自分の心を見ていきます。お母さんに使ってきた心を見ていきます。

異語。

***さん、よかったですね。学びに繋がってよかったですね。そう思いませんか。たくさん時間を生きてきたけれど、あなたも、今世ほど幸せな時を過ごしたことはなかったと思います。

今世の今の時間、学びに触れたこと、それはあなたにとって、とても幸せなことです。どうぞ、お母さんに使ってきた心を振り返り、お母さんに対する思いを、正直に見て、学びに繋がったことを喜んでください。

あなたも、動機が間違っていることを私は、感じます。ですが、あなたは、自分の心を見ていきますと、今、語られました。その思いをこれからも、どうぞ、持ち続けてください。

挫けそうになるときもあるでしょう。諦めかけるときがあるかもしれません。でも、自分の心を見てみよう、今、あなたの心の中で言った思いを信じてやってみてください。

一四一、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***でございます。長く学ばせていただいた者として、今、ここに語ることを、私は躊躇しております。なぜならば、私は、自分の心を見ることが、おぎなりにしてき

た、そう感じるからです。

今、私は、自分の心を語るチャンスを得ています。しかし、私の心の中を語るには、自身まだしつかりとした準備ができていないことを感じます。

頭を回して、私は、言葉尻をとらえてきました。自分の心癖でしょうね。私は、自分の職業柄、そのような学び方というか、本の読み方にしても、ホームページの見方にしても、そのような癖が出てしまいます。

言葉をとらえる、そうした時、私は、頭が、クル、クルと動くんです。

これはいったいどういう意味なのか、そういうところで、私は自分の心が止まってしまいます。自分の心の中のすさまじいエネルギーに心を向けることを、私は、まだしていません。

異語。

*****さん、あなたは、その肉の皮が分厚いものだと思っておられます。そうでしょう、あなた自身そうだと思います。しかし、肉の皮は、本来は薄いものなのです。真剣に、本当に自分を苦しみから脱出させる、苦しみから自分を解放そう、そうやって、心に感じる事ができたなら、肉の皮を突き破って、あなた自身が飛び出てきます。いくらでも、あなた自身が

飛び出てきます。それは、たまたまなく嬉しい叫びとして、あなたの中から出てきます。その体験をされた人、それは、この学びのとりえ方が違ってくると思います。

知識は、充分あると思います。あとは、素直になって、そう、素直になるということがどういうことなのか、瞑想をする時間の中で、感じていってください。

一四二、***さん、心を語ってみてください。

私の中にもたくさん間違いがあると思います。しかし、私は、母親の温もりを、心にしつかりと感じているとは言い難いです。だから、私は、自分自身の間違いに、本当に懺悔の思いが出てきません。

自分のどこがどう間違ってきたのか。間違ってきましたという反省はするけれども、心の底の底から、せりあがってこない、そんな自分を感じています。

***さん、それは、なぜだと思えますか。

はい、私は、本当に己が偉いからです。己が偉いということを、私は、まだまだ自覚が足りないと思います。でも、今語っている私の心を見てみますと、そびえ立っている私があります。その私を、自分の中で、しっかりと把握していない私があります。

異語。

****さん、この学びは、片手間ではできません。あなたは、どのようにこの学びをとらえているか、分かりませんが、学びに対する姿勢、私からすれば、とても、とても甘いところがございます。片手間ではできないという私からのメッセージ、どうぞ、あなた自身、これからの時間、これからの転生、それを重ねることによって、それを感じてみてください。

一四三、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は****でございます。自分の中にどのような思いが埋もれているのか、まだまだ私自身知らない思いと出会いたい、その欲の心を、私は秘めていることは確かです。でも、この

心の中に感じたものを、私も、やはり、信じていこうとしています。不思議な体験をさせていただきました。どうしてそのようになるのか、この頭では、説明できないことでした。しかし、私の心は反応しました。間違つてきた、申し訳ない、その思いが伝わってきたことは確かです。この体験を私自身、信じていこうと思つています。心で感じたものを信じていこうと思つていきます。

その一方で、先にも申しましたように、私の中にも欲の思いがございます。何か自分のこれから進んでいく方向を指し示すヒントというものを、与えてほしい、そのような思いが確かにあります。

今、このように語らせていただいたとき、ああこうやって、私は、自分の中を見ていけばいいのだ、そう感じてきました。

たくさんさんの学びのチャンスを自分自身で用意しています。私の周りには、たくさん自分の心を窺^{うかが}えるチャンスがあると思います。それを、私は、これから丁寧に見ていこうと思います。

異語。

***さん、心をタイケトメキチ、アルバートに向けてみてください。

異語。

私は、***でございます。お母さん、今、私は、とてもとても幸せな中にあります。そのことを、私の中から伝えてくれる私自身を感じさせていただいています。タイケトメキチ、アルバート…、アルバート…、心で感じている思い、今、私は、信じられます。

異語。

***さん、どうぞ、異語で、自分の中で語り合ってください。他力の反省をなさってください。神をずっと求めてきた心を、今世もあなたは使っています。異語でその思いを吐き出してください。そして、あなたの心の中で感じていってください。あなたは、もうそれができはります。

どうぞ、自分を信じてタイケトメキチ、アルバートに、ただただ心を合わせていってください。

一四四、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございませう。心を押し隠してまいりました。心を押し隠してきた、その心が、ああ、とても苦しいと、私の中で訴えています。

お母さんに心を開けるんですよ、そんな優しい思いが伝わってきます。ありがとうございます。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、私は、自分の心を騙してきました。自分を騙してきました。お母さん、申し訳ございません。

****さん、どうぞ、心をお母さんに向ける瞑想をやってみてください。あなたの中から、お母さんが伝えてくれたように、しっかりとお母さんのほうに心を開けて、優しいあなたを思い出してみてください。

異語。

タイケトメキチ、心の中に、温もりに齒向かう私を感じます。この心を、母は、私に素直

に出しなさいと、今、伝えてくれています。すべてに齒向かってきた心を、あなた自身、しっかりと見つめていくために、私は、あなたに、肉体を与えました、そのように母が伝えてくれているような気がします。

異語。

一四五、***さん、あなたの心を語ってみてください。

何でも私の思い通りにしてきました。己一番の私を心に広げてまいりました。私は、そのことを、とても、今、申し訳なく思っています。主人を踏み台にして、私は、自分の思いを通してまいりました。主人の心をズタズタにしてきたと思います。同時に自分の心もズタズタにまいりました。それなのに、私は、このように自分の心を語る時間と空間を与えられています。とても嬉しいです、間違ってきた私、申し訳なく思います。心をお母さんに、タイケトメキチに向けていきたいと思えます。

異語。

***さん、ご主人とともに、異語で語り合ってください。あなた方の心の中を、異語で語り合ってください。日本語では、自分の心を正直に語ることはできないと思います。

異語で語るんです。異語で、互いに心を吐き出してみる。そうすると、あなた方が、夫婦となつて本当によかつたと、今以上に感じられると思います。それが意識の世界の仕組みです。夫婦として縁を持ったことを、心から喜び合える、そうやって、あなた方の今世の肉を終えていってください。

一四六、***さん、心を語ってください。

私は、***です。お母さん、私は、本当に間違つてまいりました。心を見る学びに繋がつて、とても嬉しいです。たくさんの神々を心に抱えながら、この肉をいただいたことを、私は、今、とても嬉しく思っています。

この学びに繋がったからこそ、私は、自分をしっかりと見ることができるようになりました。

今まで、とても苦しかった私の心でした。

今、私は、自分の中を見えています。苦しい私が飛び出てきても、私は、それを、自分の中でじっと見つめ、そして、ともに帰ろうって、優しい思いを投げかけることが、少しずつですが、できるようになりました。

私は、これをするために生まれてきたんですね。お母さん、ありがとうございます。

異語。

***さん、そうですね。どんどんあなた的心を見ていってください。あなたの周りには、苦しい意識達が、たくさん、たくさん集ってくるでしょう。その人達に、そうです、今あなたが感じていることを、優しい言葉でいいんです、日常会話の中で、あなた自身が伝えていってください。あなたの生活している沖繩の地は、何度も繰り返すようですが、とても厳しい場所でございます。

ですが、あなたが、そこに転生をして、そして、心の学びに繋がって、今、あなたが語られたように、自分の心を見るために生まれてきたことを、その苦しい人達に、どうぞ、伝えていってあげてください。

そのためにはあなたが、しっかりと、タイケトメキチ、アルバートのほうに、心を向ける瞑想を続けていくこと、それが肝心でございます。

一四七、 ****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、****でございます。己偉い心を蓄えてきたけれど、私は、それをどのように自分の中から出していいか分からずに、今日まできました。上から押さえられてきました。私のこのエネルギーを抑えるエネルギーを感じてきました。私の心の中は、もう爆発寸前なだけけれども、私は、自分を必死で押さえてまいりました。

それが私の美德だと思ってきました。それが私の妻たる姿、母たる姿、そのように、私は思ってきました。でも、私は、私の心の中のエネルギーを感じています。とても苦しい。

異語。

****さん、そうですね。あなたが自分の中のエネルギーを吐き出そうとする方法は、そ

う、まずは、何かに書き留める、あるいは、異語を聞いて、自分の口から、音を出す、異語を出す、何でもいいんです。

何かを自分の中から吐き出さなければなりません。

初めは、あ、あとか、い、いとか、何でもいいんです。言葉を吐き出してください。そう、言葉を吐き出すんです。音にして、吐き出すんです。そうしているうちに、あなたも、異語で自分の思いを吐き出すことができるでしょう。そうやって、自分と自分の中の対話を進めていってください。

一四八、***さん、どうぞ、心を語ってみてください。

***でございます。ひとり静かに、心を見る時間を持たせていただいています。それが、一番私の幸せだと感じています。心に詰め込んできたエネルギーを、私もしっかりと見させてい
ただいています。妻を通して、周りの人達を通して、私の心に出てきたものを感じています。
すごい心を詰め込んできたなあ、自分でそう思います。

はい、****さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん、お母さん。小さな私に戻っていける、この時間、大切にしていきたい、大切にしていこうと思います。

心につかんできた思いを確認してまいります。お母さん、ありがとうございます。

一四九、****さん、心を見ることを始めておられますか。あなたがあなたの心を見なければ、何も分からないということをお伝えしたいと思います。

異語。

****です。はい、心を見る、それやってみています。私は、自分の中が、とても苦しいことを感じてきました。でもこの苦しさは、私の外からやってくるものだと、私は、ずっ

と思ってきました。自分の中から自分に訴えている、これが私なんだ、そうあなたはおっしゃるんですね。それが私の心で分かるように、自分の心を見てまいります。苦しい私を何とかしたい、その一念で、私は、ずっときました。

私は、私を知らない、そう知らないですね。今、語りながら、そう感じます。

異語。

あなたが求めてきたパワー、宇宙のパワーでは、あなた自身幸せになれなかったことを、どうぞ、心で感じていってください。あなたが求めてきたパワーは、間違ったパワー、そう間違ってきたパワーなんです。

あなたの外に求めることは、間違いだった、そのことに、早く気付いていってください。パワーを求める心を、しっかりと見ていってください。

一五〇、***さん、どうぞ、あなたも思いを語ってみてください。

私は、***と言います。初めて聞かされたとき、何か不思議な思いを感じました。心の中がザワザワしたのを感じました。ああ、私は、たくさんの他力の道を歩いてきたから、私の中の思いが騒いでいるのかなあと、今、自分の中で、思っています。

私は、まだまだ肉の鎧、兜をしつかりと着けています。心がザワついているけれど、私の表面は、何も感じていません。あなたも思いを語ってみてくださいと促されました。だから、私は、今、少しだけ、自分の思いを語ってみました。

肉の私は、何も分らないと思います。ああでも、私は、中の私は、この思いを、もう少し、知っていたらきたい、そのように思います。だから、あなたに、これから私は、訴えてまいります。どうぞ、私はあなた、私はあなたです。嫌がらずに私を受け止めてください。

異語。

***さん、今あなたの中の思いを、少し語っていただきました。

どうでしょうか。あなたはあなたであって、あなたでない何かを感じておられますか。でも、すべてがあなたなんです。そのところが心で理解できるように、あなたも、この学びに繋がった限り、しっかりと心を見ていってください。

「正しい瞑想の仕方」、「学びのポイント」、様々な資料が手元にあると思います。どうぞ、それを、手に取って、あなた自身の学びを進めていってください。素直になればなるほど、あなたは、あなたを感じていくと思います。あなたがあなたを感じていくとき、それがあなたの幸せの始まりでございます。

一五二、****さん、心を語ってみてください。

はい、私は、****でございます。心の中に溜め込んできたエネルギー、はい、私も、いっぱい、いっぱいあります。お母さんにその思いをぶつけています。お母さんは、私の思いを感じてくれています。

いっしょに、いっしょに、っていう思いを感じます。

お母さん、苦しかったね。お母さん、苦しかったね。はい、私は、お母さんといっしょに、この心を見ていきます。お母さん、私は、お母さんから生まれてきてよかった。いっしょに、すべて幸せです。

異語。

***さん、よかったですね。お母さんに、あなたの思いを、どんどん伝えてください。あなたが伝えてくる思いで、お母さんもまた、ご自身の学びが進んでいかれると思います。そして、ともに、ともに学んでいってください。ともに、ともに、喜びの道を進んでいってください。

一五二、***さん、心を語ってみてください。

私は、***。心を感じるタイケトメキチ、アルバートを私の中で思ってみます。思ってみたい、そのような思いが出てきます。

異語。

はい、***さん、では、あなたの中に感じるタイケトメキチ、アルバートに心に向け

てみてください。

異語。

****。****。異語。

****を誇る私の思いを感じます。はい、間違ってます。タイケトメキチ、アルバート、私は、タイケトメキチ、アルバートの世界をこの心で感じていると思ってきました。ああでも、それは、私が培ってきた他力のエネルギーの中で感じるものでございました。今、そのことを私は、心で感じています。心で感じられる今がよかったと、思います。

異語。

一五三、****さん、心を語ってみてください。

他力の反省をやっていきなさいよ、そう何度も、何度も、私は、促されてきました。自分

の心が、色々なものを感じ、不安と恐怖の中で過ごしてきたこともありました。その体験が、私の中にあります。

もう一步、心の奥深くに踏み出せないのは、そのためだ、私は、そうやって、自分を自分で押し留めていたような気がします。

ああでも、それは、自分自身にとっても冷たいことでした。

いくら、私が私を押し留めても、苦しい私が私に訴えてきている。それを感じます。早く、解き放つてもらいなさい、その思いが伝わってまいります。

異語。

****さん、お母さんを思ってみてください。

異語。

はい、お母さん、お母さん。はい、お母さん、嬉しいです。何もありません。あるのは、優しい思いだけです。はい、この心で、私は私を見つめてまいります。私も、自分の心を解き放

つために生まれてまいりました。

一五四、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、****です。己の偉い私をたくさん、たくさん感じさせていただきました。これから、私は、それをひとつ、ひとつ、自分の中で、お母さんの温もりで包んでいく作業があるだけです。私は、それだけが、私の中にあるだけなんです。もう、自分の醜さ、愚かさ、すさまじさを心で感じさせていただきました。

田池留吉、お母さん、ありがとうございます。今世、生まれてきて、本当によかったです。心の中に積もりに積もったエネルギーを、たくさん、たくさん感じさせていただきました。あとは、私は、瞑想をして、この思いを、お母さんに、タイケトメキチに向けてまいります。

苦しい中の私達を、私は、自分で包んでいきます。はい、必ず、包んでまいります。そして、そう、私も、二五〇年後、必ず出会いたいと思います。

この心を繋いでいきたいと思います。瞑想をして、自分の心を見てまいります。

一五五、***さん、あなたの心を語ってみてください。

はい、***です。私の意識を出されたとき、私は、寂しい、寂しいって、いつも私自身に訴えていました。私は、それを、本当に軽く受け流していました。本当に、寂しいんだなあ、近頃の私は、その寂しさの奥底を、何か、自分で感じているような気がします。

肉は、幸せです。だけど、そんなの、薄っぺらい幸せだった。私の心の中には、もっと、もっと、自分の中で見ていかなければならない心の奥底があったんだ、そう、私は、そのように感じています。

お母さん、お母さんには、言葉では言えないほどの思いを使ってきました。

何で、お前は、お前の幸せだけを優先するんだ、私はどうなるんだ。私のこの寂しい心はどうなるんだ。そんな思いを、母親に向かって、ぶつけてきたように思います。

お母さん、ごめんなさい。お母さんも寂しかったんですね。今、私は、そう感じています。

はい、***さん、心を田池留吉に向けてみましょう。

異語。

お母さん、田池留吉、田池留吉、田池留吉…。

心の中から、私を救ってください、私のこの寂しさを何とかしてください、その私を感じます。ああそうじゃなかった。私は、私のこの寂しさを、自分で救っていけるんだ、今、そのように思います。私は、私を知らなかった。はい、知りませんでした。心の中の優しさ、温もりを信じていきなさい、そのように言ってくれた田池留吉、お母さんです。

瞑想をして、少しずつ信じていきます。

一五六、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

はい、私は、****でございます。パワーを求めてきた私の心の中に、苦しみが、まだまだたくさん残っています。母にも父にも嫁さんにも、私は、ありがとう、が言えない、こんな私に成り下がっていることを感じ、私は、自分自身、本当に情けないと思います。

この心の中に、途轍もないほどの己偉い思いが潜んでいる、それが、私を一瞬にして、私

を変えてしまう、そのようなエネルギーを、心に秘めています。

異語。

***さん、あなたは、確かに、心は敏感です。ああでも、学びに集ったときのあなたの心の状態、その心の状態を、まだまだあなたは、自分の中で、しっかりと確認しております。どうぞ、心を見てみてください。

あなたのエネルギーは、すさまじいです。すさまじいエネルギーを抱えながら、あなたは、そのエネルギーで自分をさらに、大きく、大きくしようとしてきた、それに、あなたは、まだ心の底から気付いていない。ああだから、あなたは、今だけ恵まれた状態であっても、それに対して、ありがとう、が言えないんです。

しっかりと心を見てみてください。

一五七、***さん、ご主人との仲はどうでしょうか。

はい、****です。たくさんの喧嘩をしてきました。すさまじいエネルギーで、ぶつかり合いました。己、己、己一番のエネルギーを、互いにぶつけ合いました。ああ、私達の心のすさまじさを、お互いがお互いを見ているようなそんな場面を、何度も、何度も潜り抜けてきました。

口で言うては、もう追いつかない。どちらも、この身体ごとぶつかり合う、そのエネルギー、私達は、すさまじいエネルギーを蓄えてきた、今、そのことを感じています。

ああですが、私は、私で自分の心を見ようとしています。たぶん、主人もそうだと思います。この学びに繋がり、自分の心を見る学びに繋がり、私達は、互いにすごいエネルギーを出し合っているながらも、そのように、肉では努力してまいりました。

ですが、他力のエネルギーはすさまじいです。肉の思いは、そのようですが、まだまだ私達はすさまじいエネルギーの中にあります。

****さん、あなた方は、ご家族で学んでいらっしゃいます。だから、その家族の中で、どんどん学びを進めていってください。お互いにお互いの心を出し合って、そして、家族と言うよりも、ともに学べる仲間として、親子、夫婦の垣根を越えた、そんな学び方をしていってください。素晴らしい環境だと思います。それが、一番幸せなことではないでしょうか。家族

で学ぶことができる、これほど幸せなことはないと、私は思います。

一五八、****さん、心を語ってみてください。

はい、私は、****でございます。私は、自分の心を見ているようで、見てこなかった、そう思います。己偉い心は感じますが、私が見てきた、感じてきた己の偉さは、今、自分が感じている以上に、いえいえ、まだまだこんなものではない、そう心で感じます。

たくさん的心を使ってきたけれど、すべては己一番の心でございました。

ああでも、こうやって、自分を語らせていただくとき、やはり、とても嬉しいです。間違ってきたことが、はつきりと分かります。

異語。

****さん、どうぞ、田池留吉を思ってみてください。

田池留吉、くそつたれ、バカつたれ、はい、そんな思いをしつかりと抱えている私を感じます、くそつたれ、バカつたれ、ああ私には、まだまだこんな心があるんだ、そうだ、この心をしつかりと見ていかなければならないでしょう。

はい、そうですね。己が偉いから、すべてに、バカつたれ、くそつたれでした。田池留吉、申し訳ございません。

一五九、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。素晴らしい私を、どうしても崩すことができない。肝心なところを、私は握っている、私は、そんな私を感じています。心では、間違ってきた自分を感じてきました。ああ、間違っているなあ、自分に冷たかったなあ、そんな自分を感じてきました。でも、私は、まだまだ肝心なところを自分は握っている、自分を崩していない自分を感じます。そうですね。私は、やはり、自分を取り繕っています。気高き私を誇っていると思います。崩そうと肉は思うけれども、私の中は、まだまだ、崩れることを恐れています。そんな状態です。

異語。

***さん、沖繩には、この学びに繋がった人達が、何人かいらっしやいます。その人達と、どうぞ、連絡を取り合って、その人達と学びを進めていってください。沖繩の地で、学びを続けていこうとすることは、とても大変なことだと思いますが、ああでも、あなた自身の心で感じていることを、自分に素直に、自分に真摯に、ただただ進めていってください。そうした時、沖繩の人達に、学びの仲間という本当の連帯感が生まれてくると思います。

一六〇、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。どうしても、私の思いを通したい、何としてもこの思いを通したい、この心で生きてまいりました。私は、その心を、しっかりと見てきたつもりです。でもこの中から、まだまだどんどん出てきます。私の言うことを聞け、私の思い通りにみんなを動かしてやる、そんな思いが出てきます。申し訳ございません。これが、私の他方に繋がる心でございます。

異語。

***さん、ああでも、あなた自身を語ったとき、あなたの心の中にどうでしょうか、嬉しい思いが広がっているのではないでしょうか。

自分の心を吐き出すとき、その思いは、確かに間違っている、苦しい、汚い、そういうものかもしれません。でも、吐き出すときの、あなたの心、あなたの思いは、とても、優しいのですよ。お母さんが、そのことを教えてくれます。周りの人達が、そのことを教えてくれます。

心に詰め込むよりも、思いを、しっかりと見て吐き出す、周りにぶつけるのではなくて、自分の中で確認する、それを、私は、吐き出すと、表現しています。

その作業をすることが、自分自身を、さらに優しく、優しくしていくことだと、私は、感じています。あなたも、その思いを感じながら、どんどん自分の心を見ていってください。

一六一、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***と云います。何を語ればいいのか、そう、私のこの中に、いっぱい詰まっているけれど、私は、やはり、自分の寂しい心をしっかりと見ていきたいと思えます。寂しいから、色々なものを求めてきました。たくさん求めてきました。その心は、自分にとって、あまりにも、かわいそうでなりません。寂しいから、何かで紛らわす、何かで誤魔化す、何かを求めて、それで癒してもらおう、そんな自分がたまらなく、かわいそうに感じています。この学びに繋がって、私は、寂しい心を、自分なりに見てきました。でも、その前に、寂しい心を、自分の中でしっかりと見る前に、私は、それを、やはり、何かで誤魔化そう、そういう心が動くことを感じます。私の肉の行動を振り返ると、確かに、そのような思いが働いて、それが、この肉を動かしてきたんだと、今、感じています。

異語。

***さん、学びに繋がってどうでしょうか。本当に心の中から喜びが湧いてきていますか。あなたは、この学びに何か違うものを求めてはいないでしょうか。つまりは、あなたの動機は何でしょうか。

学びで伝えられていることを、鵜呑みにするのではなく、まずあなた自身をしっかりと見つめてください。ありのままのあなたの思いを見つめてください。

それだけでなく、あなたは、自分自身をかわいそうだと思うその心が、せっかくあなたに出してきたのに、また、肉の中で埋没していきそうな、そんな気がしてなりません。学びを続けていくためには、あなたの自身の心を、しっかりと見ることです。誰に聞いても分かりません。そう、分からないんです。あなた自身に聞くんです。そのことを忘れないでください。

一六二、***さん、あなたの思いを聞かせてください。

私は、***です。己を誇るということを、私はしてきたけれど、その自分のエネルギーを、私の中でまだまだ見ていつておりません。

心を見ていくと、自分は素晴らしい者として転生を繰り返してきた、そんな過去世を感じています。ああでも、それは私の闇、ブラックだったんですね。今、それを感じます。

***さん、どうぞ、心を真剣に見ていつてください。心の中に、中に向けていつてく

ださい。素晴らしい自分はいいけれど、みすばらしい自分は受け入れられない、そんなあなたの心はありませんか。

お母さんは、どんなあなたでも受け入れてくれたはずです。こういうことは、あなたは、頭では分かっておられると思います。母は私のすべてを受け入れてくれた。だから、私は、今世、生まれてきたのだ。そのように、あなたは、頭では分かっておられると思います。でもそれを、しっかりと心で感じられるあなたになってください。

母親の温もりを、感じておりますか。お母さんの優しさ、温もり、どうぞ、そのところを、もう一度、自分の中で思い起こしてください。

一六三、***さん、どうですか。アマテラスに心を向けてきたあなたを、見てこられましたか。

私は、***です。はい、アマテラスとともに生きてきた私の歴史、過去からの歴史、ずっと、ずっと、長い、長い歴史の中で、今世ようやく、アマテラスが間違っている、アマテラスの思いも、とても苦しいものだった、お母さんの温もりを求めてきたそんな意識だったこと

を、学ばせていただきました。確かに、私もそのように感じてきました。でも、正直申しまして、私の中にまだまだアマテラスを神とする心が生きております。

アマテラスを、素晴らしい神として崇め奉ってきた私の過去世達の思いが生きています。私は、この私自身とともに、今世の時間、しっかりとこの心を見てまいります。

***さん、あなたは、間違っていました。間違ってきたんです。あなたは、あなた自身に冷たかったです。そのことを、心で感じていってください。日々、瞑想をする時間の中で、自分に思いを向けてください。アマテラスにひれ伏すあなたが、どれほど自分に冷たかったか、そして、アマテラスの心をあなたの心で感じてみてください。

優しい、優しい思いを、アマテラス自身も待っていると思います。

一六四、***さん、心を語ってみてください。

寂しい心がどんどん出てくるけれど、私は寂しがってはられない。寂しい私は、暗い私なんだ、そうやって、寂しい私に心を向けることをしてきませんでした。

夫を亡くして寂しい…。

素直に自分の心を見てきませんでした。人には言います。涙も出ます。でも、私の心の中に、どれだけ夫に頼ってきたかを、その他力の思いを見ることはしてきませんでした。

ただ、ただ寂しい、寂しいって、訴えてきただけです。夫に頼る心、それが他力の心です。その思いを、しっかりと見てきませんでした。

異語。

***さん、亡くなられたご主人はもういいのです。それよりもあなたは、あなたを見ていってください。

頼る心とおっしゃられても、あなたの中には、もっとすさまじい他力のエネルギーが潜んでいます。頼る思いとは、どのような思いでしょうか。それをどんどん見ていってください。もしかすると、あなたは、夫に頼りながら、自分の思い通りに、夫を動かしてやろうとしてきたわけではありませんか。そのような思いを見ていってください。

他力のエネルギーはすさまじいです。あなたはご主人を思い…。

ああ、そんな暗い心で思ってみても仕方がありません。

それよりも、自分の心を、もっと掘り下げて見ていってください。

あなたには、これからの転生が待っています。どなたにも共通するところですが、心を繋いでいくこと、今世、あなたが心で学んだことを、あなたの転生に繋いでいくこと、それが自分の仕事です。どうぞ、そのところに集中して、時間を過ごしていってください。

心を見る時間は、そう、そんなに残されていない、これも皆さん共通するところでございます。

一六五、****さん、どうぞ、心を語ってみてください。

私は、****でございます。お母さん、自分の冷たさ、愚かさ、そんな心をたくさん感じています。感じながらも、私は、自分の心を置き去りにしてきた、自分は何て愚かなんだろうか、それも感じます。

学ばせていただきました。でも、私の学びは、やはり、浅いものだったと感じます。肉の私は、一生懸命にやってきたつもりです。でも、私の中から、お前は、自分の心を見ていない、見てこなかった、お前は冷たい、冷たい、そんな思いが響いてきます。だから、私の心の見方は浅かったんだなあ、今、そう思えます。

異語。

***さん、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、田池留吉、真実のことを伝えてくれた田池留吉、田池先生に、私は、本当にすごいエネルギーをぶつけてきました。

申し訳ございません。このエネルギーはすべて、私の肉体細胞を通して感じさせていただいています。肉体細胞は私の心の表れでございました。それを素直に認めることが、なかなかできませんでした。己偉かったからです。私は、とても己が偉かったです。申し訳ございません。

一六六、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。田池留吉に私の思いを聞いてほしいというこの心を見てみました。私の中に、自分の素晴らしさを、田池留吉に知らしめたい、そんな思いがあります。

私の心の世界は、とてつもなく大きい、そういうことを、私は、知ってほしいと思っています。心の中に培ってきたエネルギーの大きさを、私は、認めてほしい、そのような思いがあります。でも、田池留吉は、私を認めてくれません。あなたが向いている先は、他力ですよ。他力のエネルギーがあなたに、ピツタリ貼り付いている、そう言っつて、私のことを認めてくれない。なぜ、私を認めないのか。私は、ただただこの思いを、田池留吉にぶつけていました。

異語。

***さん、あなたが培ってきた世界というものに、心を向けてみてください。

異語。

私は、素晴らしい。私こそ素晴らしい。私は、この思いをお前に伝えている。田池留吉の教えなどに耳を貸すな。お前が苦しくなるだけだ。そんなもので幸せになると思ってお前の中を見つめる。欲ばかりではないか。冷たい心ではないか。私のほうに心を向けよ。私は、お前を手助けしてやる。お前の望むものを、その心の中に届けてやる。私のほうに心を向けよ。

異語。

***さん、あなた自身を語っていただきました。どうでしょうか。あなたは、そのあなた自身とともに歩いていく決意、思いがあるでしょうか。

あなたを見捨てることはできません。あなただからです。そんなあなたを、どうぞ、心の中にもう一度、呼び起こし、そのあなたとともに歩いていってください。

どれだけ心をそちらのほうに向けようとも、あなたは、あなたの中の温もりを、本当は知っています。あなたは、その温もりに帰りたい、その思いでいます。どうぞ、それを信じていってください。田池留吉に戦いのエネルギーをぶつけても、田池留吉というエネルギーは、それをただ吸収していくばかりです。戦いのエネルギーは、自分に返ってきます。それがあなたの心の苦しみ、そういうことを、あなた自身、感じていってください。

一六七、***さん、心を語ってみてください。

****でございます。私は、自分の心の貧しさを実感しています。心の中の貧しさ、汚さ、醜さ、実感しています。でも、実感しているけれども、そう、けれども、が付いています。その中から、私は、私をどうすることもできない、そんなエネルギーも感じるからです。

心が身動きできない状態であったことを、私は感じてきました。苦しみは、私の身体に出てきました。すごいエネルギーで自分を縛ってきたと、私は、その時、思いました。でも私は、まだそのエネルギーを、解き放つところまでには至っていないことを感じます。

一生懸命やってきたつもりです。しかし、何か、私の中で、ボタンの掛け違いがあったのでしょうか。最初の第一歩が間違っていたのでしょうか。

異語。

****さん、そうかもしれません。動機が間違っていたのかもしれない。かもしれない。かもしれない。あなたが、それをまだまだ認めていないからです。どうぞ、そのところを、しっかりと見てみてください。私は、あなたの動機が間違っていると思っています。

あなたは、肉のあなたは、おそらくそのことに反発されるでしょう。でも、私は、あなたの学びに向けてきた思い、それが、ズレていると感じています。心には、色々と感じられると

思います。ですが、あなたの心の向け先は、やはり他力だと私は思います。

あなたが、学びに集った頃からのあなたの思いを、しっかりと見直してください。

一度、そのところから出直してみてください。それをして、そして、瞑想をやってみてください。

異語。

あなたも、自分と自分の間に、誰かを入れていませんか。これは大きなポイントだと思います。

異語。

一六八、****さん、どうぞ、心を語ってください。

私は****でございます。私もどちらかというと、心を語ることをしてきませんでした。自分の中のエネルギーを感じてはいるけれど、それを、自分の外に素直に出すということをし

てきませんでした。

心を抑えてきたと言ってもいいでしょう。それは、とても自分に冷たかった、そういうことを感じています。学びの年数は、私も古いです。

自分なりにやってきたという思いもあります。でも、皆さんの反省を見させていただいて、私は自分の根本を見てこなかった、そんな気がします。

心を感じた思いもあります。学びに繋がったことを喜んでいる私がいいます。それは、確かです。でも、それだけではダメなんです。心を見る、自分の思いを転回するために、今世、この肉体をいただいた。そのことを、どれだけ私の中で、すごいことだと思ってきたか、そういうことを真つ直ぐに訊ねられたとき、私は、それに、真つ直ぐに答えることができないほど、自分の根本がないことを感じます。

肉としての私、それを前に出して、私は、やはりこの学びを肉で聞き、肉で見て、肉で感じて、いい学びだ、本当にその通りだ、そういうふうな思ってきたのだと思います。

異語。

***さん、どうぞ、心をお母さんに向けて、もっと自分の思いを見ていってください。

心の中に、たくさん、たくさん、お母さんに対する思いが詰まっています。お母さんの反省を、上辺だけではなくて、自分の心を見る、その方向にしていってください。あなたにとってお母さんとは、どのような存在だったのでしょうか。お母さんの心が、あなたに伝えてくれたものは、何だったのでしょうか。お母さんに、ぶつけてきたエネルギーを自分の中で見ることによって、そのところに触れていってください。

心の琴線と言うのでしょうか。そのところに触れていってください。お母さんの反省を、していってください。

一六九、***さん、心を語ってみてください。

****です。お母さん、お母さん、苦しかったよ、お母さん。

どれだけ自分を誇ってみても、私の心は苦しかった。苦しくて、苦しくて、寂しくて、寂しくて…。お母さんを求めてきた自分の思いを、今、感じています。****という肉体をいただきました。お母さん、あなたから生んでいた私の心の中を、あなたは、真っ直ぐに伝えてくれました。私の肉を見て、あなたの思いを感じていきなさい。そんなあなたの思いを

感じます。お母さん、今、お母さんの思いを感じます。

異語。

***さん、どうぞ、田池留吉に心に向けてみてください。

田池留吉、田池留吉、田池留吉、何度心に呼んでも、田池留吉の目は、私の目を、じっと見ているだけ。それがたまらなく苦しかったです。

私は、田池留吉の目を見えています。あなたが呼ぶ思いに、間違いがありますよ、何も言わないあなたは、そのように伝えてきます。

そうなんです。私は、田池留吉に思いを向けるとき、欲の思いで向けていることを感じてきました。それは、あなたに認めてほしいというのではなく、この心を、あなたの目を見る私の心を、何とかあなたに分かってほしい、そんな思いで、あなたの目を見つめてきました。

今更、こんなこと、言えなかった。だけど、今私は、あなたの目を見て、素直に、ありのままの自分を語っています。どんな私でも、受け入れてくれていたんですね。これから、私は、瞑想をする時間、あなたの目を見ながら、自分の思いを、ありのまま、素直に見てまいります。

どんな思いもよかつたんです。

***さん、異語。

はい、私は、今、異語であなたに伝えました。この思いを、どうぞ、あなたの心で受けて
いってください。

瞑想をする中で、あなたは、田池留吉に心を向けながら、しっかりと自分の心を見ていっ
てください。心を見ていって、あなたの中から出てきた思いを、どうぞ、しっかりと受け止め
て、確認していってください。

一七〇、***さん、心を語ってみてください。

私は、***です。自分の中のすさまじいエネルギーを心で感じる喜びを、私も知るよ
うになりました。すごいエネルギーです。でも、私は、嬉しいです。こんなすごいエネルギー
を持った私を、生んでくださったお母さんがいました。今、心に感じています。

素直になるっていうことは、本当にすごいことですね。私は、なかなかそれができま

せんでした。自分の心を見るということが、なかなかできなかつた。素直でなかつたからです。ああでも、本当に自分を、今世、何とかしたい、そうこの苦しい自分を、本当に優しい、優しい思いに変えていこうと思えたなら、素直になれます。何だつてできます。

心を見なさいと言われて、なかなか心が見れなかつたけれど、私は、やっぱり幸せな自分と出会いたかつた。そう私自身と出会いたかつた。そうなんです。私は、そのために生まれてきたんですね。まだまだ、まだまだです。私には、これからがあります。今世の時間を、自分にできるだけ自分に沿って生きていこうと思つています。

この学びに集えてよかつた。私は、本当によかつたと思つています。

異語。

***さん、アルバートに心に向けてみてください。

アルバート、アルバート、アルバート、アルバート。ああアルバート、待つてください。ああアルバート、待つてください。必ず、あなたの許へ集います。心からあなたの許へ集います。心の中の私達とともに、集いたい、そのような思いが出てきています。転生を重ねて

いきます。でも私の向かう先は、二五〇年後だと思えます。心をしっかりと見つめてまいります。明るく、喜びで自分を見つめていきたい。

アルバート、どれだけ汚れ切った私の心も、あなたに向けて、私は出してまいります。ありがとうございます。

一七一、***さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、***でございます。今の私の気持ちは、とても言葉では表せられないと思えます。自分の中に何かがあるんです。この私の何かを吐き出してみたいけど、私は、やはりそれを恐れています。自分の心を見ることを、私も自分なりにやってきました。でも、私も肝心なところを、この肝心なところの扉を開けていない、そんな自分を感じています。

今、私は、自分の心を語りなさい、そういう促しの中で、心の中の固い岩盤を割ろうとしているけれど、私の中の意識は、とても、とても、それを恐れています。

異語。

****さん、どうぞ、素直になってあなたの心を見ていってください。すごいエネルギーを蓄えてきたあなた自身を、感じていってください。

何も恐れることはありません。心の中の闇、ブラックは、みんな同じでございます。だから、あなたは生まれてきました。

異語。

****、我一番、我一番、私は一番、私は一番、田池留吉、お前の許で私は、今、心を見なさいと教えられました。ああでも、私は、田池留吉をととてもとても、下に見ています。

田池留吉をこれほど下に見ていたのかと思うほど、私はそびえ立っています。すごいエネルギーです。ああだから、私は、今世、とても苦しかった。いいえ、今世だけではない。過去から、私はずっと苦しみの中を歩いてまいりました。そして、これからの転生もありますが、私の転生は、とても厳しいものだと思います。

今、今、心を田池留吉に、お母さんに向けるということは、私にとって、かけがえのない優しさ、温もりだ、今、そのように感じています。

異語。

はい、***さん、奥さんに対して、どんな思いを広げてこられましたか。

異語。

ワンマンでございました。我に従えの思いを、ずっと、ずっと、その思いを流してきました。妻は、妻で、私は、一番よ、私は一番よ、そう言っ、私に食い下がってきます。どれだ、互いの中で、火花を散らしてきたことか。私達は、そのような戦いのエネルギーを流してきました。

金、金、金、金、金……。金で喧嘩をしました。自分達の幸せのために、金、金、金。その金で喧嘩をする、そんな私達です。幸せになるはずはありませんでした。ずっと、そんな心でやってまいりました。

異語。***さん、ご主人の思いを、あなたは感じていましたね。あなたの苦しい心を、

ここで語ってみてください。

私は、***でございます。もうたくさん、たくさん、たくさん、たくさん。私は、あなたの奴隷ではありません。私は私なんです。私を認めてください。私は、とても、とても、苦しい、苦しい思いを広げてきました。幸せになりました。幸せにしてほしかった。そんな思いで、あなたについていったけれど、私のことなど、あなたは……。そう優しい思いなど、私にかけることはなかった。私は、表面的な優しさなど要らなかった。あなたの心の底からの優しさを求めてきました。心の底からの優しさです。

ああ、これが私の他力の心です。あなたは、あなたの中で精一杯でした。私に心向ける余裕などなかった。それが私には分かりませんでした。私は、もつと、もつと、もつと優しくして、私を愛してと私は求めてきました。苦しかったです。求めて、求めて、求めて得られるものは、寂しさ、空しさ、悔しさ、そして、相手を憎しみ呪う思いばかりです。他力の思いを膨らませてまいりました。

異語。

おふたりとも、自分達の苦しさを、心で感じておられると思います。学びに繋がって、それなりに学ばれてきたと思います。でも、心の底からは…、どうでしょうか。しっかりと心を見ていってください。

田池留吉に、お母さんに心に向けていくこと、それだけでございます。外に思いを向けると、苦しみが膨らむばかりです。その苦しみを、どのようにして、自分の中で包んでいくか、自分をどのようにして変えていくか、それは、それぞれの心にかかっています。夫婦となつて、互いに心を見させていたでいる今、どれだけ苦しみ罵り合おうとも、幸せなはずで、肉体的な幸せではなく、自分達の心を見るという幸せです。そのように思えませんか。そういうふうな方向で、どうぞ、これからの時間を過ごしていってください。これからの転生が待っています。心をしっかりと見て、そして、次の転生に繋いでいってください。

一七二、****さん、心を語ってみてください。

私は、****でございます。心を田池留吉に向けると、喜びも出てきますが、私の中には、まだまだ苦しみがたくさん、たくさん残っていることを感じます。自分の心を見てきたつもり

でした。ああでも、私は、その見方が浅かったと、今、感じています。

喜びを感じていた私の心の中に、苦しみが広がっていくとき、私は、心が落ち込むのをどうすることもできません。心が落ち込むんです。私は、できてきた、私は、ようやく、感じてきている、そのような思いを持ったとき、私の心は、ストンと下に落ちていきます。それがとても、私の中で苦しみでした。そうでした、はい、私は、できている、その思いが、私を苦しみの底へ沈めていく、そのエネルギーでした。

申し訳ございません。申し訳ございません。

異語。

***さん、この学びは喜びだけでございます。心が落ち込むのが、どれだけあなたの心が落ちていっても、そう、それを喜んでいくんです。

肉で考えると、難しいようですが、そうではありません。

喜びが基本です。喜びしかありません。どんどんどんどん心が落ちていったとき、そう、その時こそ、あなたの心を見ていってください。

そして、お母さんを思って、田池留吉を思って、瞑想をするんです。自分がどれだけの苦

しみの中を歩いてきたかを感じると思います。

そこから、また一歩ずつ歩いていってください。喜んでいけばいいんです。簡単なことです。どうぞ、その一歩を進めてください。

一七三、 ****さん、あなたの今の思いを語ってみてください。

私は、****でございます。

母に使ってきた思いを振り返るにつけ、どれだけ己をそびえ立たせてきたことか、そのエネルギーのすさまじさを、日々の生活の中で、感じています。主人に使う心、殺しています。死ぬ、死ぬ、死ぬ、死ぬ、この思いを広げてきました。今も広がっています。これでは、私の思いが届かないのは当たり前です。私は、主人は他力の中にどっぷりのエネルギー、他力そのものだとあざけり笑ってまいりました。しかし、それは私の姿でございました。

主人はとて自分の身体を大切にしています。私から見ると、滑稽なくらい、主人は身体に気を使っています。ああ、この人は、本当に死ぬのが怖いのだろうなあとは私は、主人の姿を見て、そのように思ってきました。そこには、ひとかけらの優しさもありませんでした。どれ

だけ主人の姿を見て、私を、ただただ上に置いてきただけです。私は、主人に対して優しい思いを流すことはしてこなかった。そう、今、そのよう感じています。

私と主人は、どこが違っているのだろうか。

私は、学びをやっている。真実の学びをやっている。そう、そうやって、私は、常に己を高く掲げてきたに過ぎなかった、今、それをしみじみと感じています。

母に使った思いも、まさしくそうでした。母は、母は、とても愚かな肉を通して、私に気付きなさいと言ってくれたのでした。

異語。

母に逆らうことはできませんでした。母を神と思い、神と崇め、そして、私は、母を…。

はい、あのアマテラスがすべてだと思ってきた時代に、母を神、アマテラスを神、そのように思っていました。その思いは、今も抜けません。母こそ素晴らしい神、その母から生まれた私も素晴らしい、その思いをずっとずっと持ち続けて転生をしてきた者でございます。

今世、ようやくそのことの間違いに気付きなさいと、その道筋に自分を促した、そのことすらも、私は、まだまだ気付いておりません。

異語。

***さん、あなたは以前、心が敏感になったときがありましたね。

今もその恐怖がありますか。あなたの心を、今一步真実の方向に踏み出せない理由が、その恐怖にあるのでしょうか。

異語。

はい、確かにその恐怖がございました。ですが、私は、あの時の恐怖とは、違うものを、今、感じています。

あの時は何も分らないまま、私は、なぜこんな状態になるのだろうか、とても苦しい、苦しい、苦しいと、何が何だか訳のわからないまま、私は、苦しい思いを、周りにぶつけてきただけでございました。

ああ、それから、年月が経ちました。私は、私なりに、分らないまま、自分を振り返ってきたその年月を重ねてきました。

心はまだまだですが、あの時の苦しみとは違った苦しみを感じています。私の苦しみは、それどころではなかった、今、そのことを感じています。私には、もつともつとすごいエネルギーが隠されている、まだまだ自分で押し隠しているような気がします。そのエネルギーが自分の心の蓋を開けることを、躊躇しているような気がします。

エネルギーを出しているように、肉は思っています、私は、その蓋をまだ開けることをしておりません。

私の蓋を開ければ、私の主人も、そして、周りの者も、すべて吹っ飛ばしていくようなエネルギーを抱えてきました。

異語。

あなたには、子供さんがいらっしやいます。その子供さんにも、また子供さんがいらっしやいます。そして、あなたは那些人達を見つめながら、自分の心の世界を見つめているのだと思います。

肉的には色々あると思います。そして、また、その一方で、肉の喜びだとか幸せだとか、その子供達は感じていると思います。でも、あなたの心は、違う、違うと言っているんです。

そのあなたの心を、素直に出していけない苦しみ、あなたにあると思います。肉の幸せを壊してでも、真実を歩いていきなさいと、ひたすら、伝えるあなたの思い、そう、それをあなたは、自分の中で、出していくのを躊躇しています。それは、とりもなおさず、あなたが、自分の肉を守り、肉の生活を脅かすもの、肉の生活を崩していくものから、守っていかうとする他力の心、それは、アマテラスの心に通じる、そのことを、あなたの心は感じています。だから、穏便に、穏便に、ともすれば、その流れに流されていつているあなたがある、それがあなたの苦しみでございます。

一七四、****さん、あなたの心を語ってみてください。

私は、****と言います。

ずば抜けて己が偉い。私は立派、そびえ立ちもいいところでございます。

この肉のどこが素晴らしいのか。私は、私の中から、訴えています。

しかし、私の思いを、あなたは、無視するんです。無視してきました。

肉の私は素晴らしいと言って、あなたは聞かないんです。

私は、それよりも、私のほうに思いを向けてくださいと、あなたに訴えてきました。あなたは、そんな私を、振り切つて、あなたは、あなたを表していきました。

心の中に響いてくる思い、****さん、どうですか。あなたの心の中に響いてくる思いですよ、これは。

その思いを、あなた自身、受け止めてあげてください。

立派な頭は要らないんです。立派な言葉、たくさんの言葉は要らない。

ただただ、これが私だと、あなた自身が、受け止めて、包んであげられる優しさ、本当の優しさ、それは、言葉ではありません。

私は、あなたに、そのようにお伝えしたいです。あなたの心の中から伝わってくる、あなた自身に、どうぞ、心を向けてください。

懺悔は、頭ではできません。

一七五、****さん、あなたの思いを語ってみてください。

私は、***といます。心の中に溜め込んできたエネルギーを、自分の中で見ていくことは、とても大変な作業なんです。

私は、自分がどれほどそびえ立っているのか、その心の見方が、とてもとても甘いと感じています。

私は、いまだに、肉の母親にありがとうなんて言えません。お母さん、ありがとう、心の底からそのように、今の母親に言うことができたなら、どれだけ私の心は軽くなるでしょうか。

私は、それすらもできないんです。どんなに母親の反省をしても、私の心の基盤は肉なんです。瞑想をしていると、心に感じるものがあります。でも、それが、目を開けて、母親と接するたびに、私の中からすさまじいエネルギーが飛び出してくるのです。

心の底から、母に対してありがとうとうって言える、そんな自分を夢見ています。

異語。

***さん、あなたが、つかんできた他力のエネルギーに心を向けてください。

異語。

私は、***の意識。

私こそ神、私は神、私は神。そのように、この者に伝えてきました。

私の中に、宇宙を支配する、宇宙に君臨するエネルギーを培ってきました。その思いがとても強いです。我こそ神なり、宇宙に君臨するものなり。その思いがとても強いです。

異語。

あなたの中のアマテラスはどうでしょうか。

アマテラスも、やはり、宇宙に君臨する神として、あなたの中に、あるのでしょうか。

はい、私は、アマテラスを神として祭ってきた。そう、宇宙を思うとき、アマテラスのほうに心が向きます。アマテラスの宇宙、アマテラスの宇宙、それが私の宇宙。そして、私は、そのアマテラスを利用して、もつともつと大きな宇宙を、心の中に作るうとしておりました。

異語。

***さん、あなたの宇宙、心の中にある宇宙、その心の奥の奥は、どうでしょうか。冷たくて寂しくて暗くて、そう、とても暗い、とても寂しい、冷たい。

あなたの心で感じていってください。そして、あなたから、あなたの宇宙へ、お母さんの温もりを伝えていってください。

あなたの意識ではありませんか、参考にしてください 第2巻

2009年8月1日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2009 Printed in Japan